

教育委員会会議の概要（令和元年7月臨時会）

- ◆ 日 時 令和元年7月11日（木）午後2時から午後5時52分まで
- ◆ 場 所 仙台市役所本庁舎 第2委員会室
- ◆ 出 席 者

教 育 長	佐々木洋	出席
委員・教育長職務代理者	吉田利弘	出席
委 員	加藤道代	出席
委 員	花輪公雄	出席
委 員	中村尚子	出席
委 員	里村正治	出席
委 員	阿子島佳美	出席

◆ 会議の概要

- 1 開 会
- 2 議事録署名委員の指名 阿子島委員
- 3 協 議 事 項

（1）令和2年度使用の仙台市立義務教育諸学校教科用図書の採択について

（教育指導課長、教育センター担当指導主事 説明）

教育指導課長 教科用図書の採択についてご説明する。

今年度は、令和2年度に使用する「中学校用教科書」「小学校用教科書」、特別支援学校・特別支援学級で使用する「一般図書・文部科学省著作本」の採択を行うこととなるが、本日を含む4回の協議においては、これら教科用図書のうち、特別の教科 道徳を除く中学校用教科書、小学校教科書、特別支援学校・特別支援学級用一般図書・文部科学省著作本についてご審議いただき、7月26日の定例教育委員会で、それぞれの採択をお願いしたい。

それでは、本日ご審議いただく中学校及び小学校で使用する教科書の採択についてご説明する。

今年度は、令和2年度に使用する「特別の教科 道徳」以外の中学校用教科書と新学習指導要領に基づく新しい小学校用教科書を新たに採択する。

このうち、中学校用教科用図書においては、平成30年度検定において新たな検定合格

図書がなかったため、前回の平成 26 年度検定合格図書の中から採択を行うこととなる。そのため、文部科学省からは、4年間の使用実績を踏まえつつ、平成 27 年度採択における調査研究の内容等を活用することも考えられるとの通知を受けている。

また、令和元年度は、中学校学習指導要領改訂後の教育課程の実施に伴う教科書の検定年度となっていることから、令和 2 年度においては令和 3 年度に使用する検定後の教科書を新たに採択するとの通知も受けている。

したがって、今年度採択する中学校用教科書は、来年度 1 年間のみ使用する教科書となる。

次に、小学校で使用する教科書についてご説明する。

今年度は、平成 30 年度検定に合格し、平成 31 年 4 月文部科学省発行の小学校用教科書目録（平成 32 年度使用）に登載された全ての教科用図書の中から令和 2 年度に小学校で使用する教科書を採択する。

なお、小学校においては 6 月 27 日に、中学校並びに特別支援学校・特別支援学級においては 7 月 1 日に、それぞれ「令和元年度仙台市立義務教育諸学校教科用図書協議会」から、教育委員会に対し、採択対象となる教科用図書の特長について協議した結果の報告が行われている。本日以降の審議に当たっては、この協議会報告書や調査研究委員会報告書などの内容も参考にさせていただくようお願いする。

大まかなスケジュールとしては、本日は、特別の教科 道徳を除く全ての中学校用教科書、小学校用教科書の外国語、社会、地図について協議し、7 月 16 日、7 月 18 日、7 月 22 日に残りの小学校用教科書と特別支援教育関係の教科書についての協議をお願いする。

教 育 長 ただいまの説明の内容で進めていきたいと思うが、委員の皆様、よろしいか。

(異議なし)

それでは、本日は今年度の採択対象となる中学校用教科書 15 種目と小学校用教科書 3 種目について協議を行う。

協議の適正さ、公正さを確保する観点から、委員の皆様にも率直なご意見を述べていただきたい。本日の協議の発言者においては、お手元の対応表に従い、発行者名ではなく A 者・B 者といった表記で呼ぶようお願いする。

なお、A、B の記号は任意に振ったものであり、発行者番号順ではないので、ご了承願いたい。

したがって、本日使用する資料だが、発行者名が記載されている別紙資料 1 から 7、別紙資料 16 については採択手続終了まで非公開とする。そこで、傍聴においでの皆様へは別紙資料を配付しないこととしている。教育委員会議事録が確定次第、当該資料を合わせて市政情報センターにおいて閲覧できるようにするので、ご了承願いたい。

なお、別紙資料 8 から 13 については、宮城県教育委員会ホームページに、別紙資料 14、15 は文部科学省ホームページに同一の資料が掲載されている。

それでは、改めて事務局から配付資料について説明をお願いする。

教育指導課長 本日配付している資料について説明する。

初めに、資料 1 は、宮城県教育委員会から示された「教科書の採択に係る基本方針」である。

次に、資料 2 は、同じく宮城県教育委員会から示された「令和 2 年度使用教科用図書（小学校各教科）採択基準」である。

次に、資料 3 は、同じく宮城県教育委員会から示された「令和 2 年度使用教科用図書（小

学校特別の教科（道徳）採択基準」である。

次に、資料4は、同じく宮城県教育委員会から示された「令和2年度使用教科用図書（中学校各教科）採択基準」である。

次に、資料5は、同じく宮城県教育委員会から示された「学校教育法附則第9条の規定による教科用図書（一般図書）」の採択基準である。

これらは県内各採択地区において、適切な採択を確保するための援助として、宮城県教育委員会が作成したものである。

次に、資料6は、6月の臨時教育委員会で議決いただいた「令和2年度使用の仙台市立義務教育諸学校教科用図書の採択方針」である。

次に、資料7は、「小学校教科書発行者一覧」である。

次に、資料8は、「中学校教科書発行者一覧」である。

続いて、別紙資料について説明させていただく。

別紙資料1は、「令和2年度仙台市立義務教育諸学校で使用する教科用図書の採択対象となる教科用図書について（報告）【中学校・特別支援学校、特別支援学級】」である。

別紙資料2は、「令和2年度仙台市立義務教育諸学校で使用する教科用図書の採択対象となる教科用図書について（報告）【小学校】」である。

これらの資料は、有識者、保護者代表、校長から構成された仙台市立義務教育諸学校教科用図書協議会で、それぞれの学校で使用する教科書の特長をまとめたものである。協議順に記載してある。

別紙資料3は、「令和2年度使用の仙台市立義務教育諸学校教科用図書にかかわる資料1【中学校】」である。

別紙資料4は、「令和2年度使用の仙台市立義務教育諸学校教科用図書にかかわる資料2【小学校】」である。

これらの資料は、小中学校の校長、教頭で構成された調査研究委員と主幹教諭、教諭で構成された専門委員が、専門的見地から各教科の教科書の調査研究を行い、報告書としてまとめている。

この報告書は、県の採択基準に沿った仙台市の採択の観点に基づく調査研究と学習指導要領に沿った仙台市の採択の観点に基づく調査研究を1者につき1ページでまとめており、各教科書の特長を観点に沿って、網羅的に示した資料である。

別紙資料5は、「令和2年度使用の仙台市立義務教育諸学校教科用図書にかかわる資料3【特別支援学校及び特別支援学級】」である。

別紙資料6は、「令和元年度仙台市立義務教育諸学校教科用図書協議会（中学校）議事録」である。

別紙資料7は、「令和元年度仙台市立義務教育諸学校教科用図書協議会（小学校）議事録」である。

別紙資料8は、宮城県教育委員会から示された「令和2年度使用教科書選定資料 中学校用」である。

別紙資料9は、宮城県教育委員会から示された「令和2年度使用教科書（中学校）選定資料 社会科（補助資料）」である。

別紙資料10は、宮城県教育委員会から示された「令和2年度使用教科書選定資料 小学校用」である。

別紙資料11は、宮城県教育委員会から示された「令和2年度使用教科書（小学校）選

定資料 社会科（補助資料）」である。

別紙資料 12 は、宮城県教育委員会から示された「令和2年度使用教科書（小学校）選定資料 特別の教科道徳（補助資料）」である。

別紙資料 13 は、宮城県教育委員会から示された「令和2年度使用 学校教育法附則第9条の規定による教科用図書（一般図書）選定資料」である。

これらの選定資料は、資料1の宮城県教育委員会の採択基準の4つのカテゴリーについて、教科ごとに全発行者の特長をまとめたものである。

別紙資料 14 は、平成31年4月に文部科学省から示された「中学校用教科書目録（平成32年度使用）」である。

別紙資料 15 は、平成31年4月に文部科学省から示された「小学校用教科書目録（平成32年度使用）」である。

別紙資料 16 は、令和2年度使用 学校教育法附則第9条の規定による教科用図書（一般図書）及び文部科学省著作教科書（小学部用・中学部用）一覧（案）である。

配付資料については以上である。その他、参考資料として、「令和元年度教科書展示会の市民アンケート」「令和2年度使用教科用図書の採択希望に関する資料」「要望書」がある。

さらに、各教科の教科書と編修趣意書も机上に用意しているので、あわせてご参照いただきたい。

教 育 長 ただいまの事務局の説明について、何かご質問はあるか。

（質疑なし）

質問がなければ、協議に入る前にこれからの進め方についてお諮りしたい。

中学校用教科書の協議の進め方であるが、まず、事務局から学習指導要領における教科の目標や協議会の報告等について説明を受けた後、協議を行うこととしたい。教科書については、本日までに、実際に教科書見本本を手に取り、ご覧いただいていると思う。

また、「各種報告書」「教科書展示会の市民アンケート」「採択希望に関する資料」「要望書」等の各種資料にも既に目を通していただいていることから、この場では閲覧の時間を設定せず、協議に時間をとりたい。

今年度は、先ほど事務局から説明があったとおり、平成30年度検定において新たな合格図書がなかったため、平成26年度検定合格図書の中から採択を行うこととなる。文部科学省からは4年間の使用実績を踏まえ、前回採択における調査研究の内容等を活用することも考えられるとの通知を受けていることから、協議においては、4年間の使用実績を踏まえ、前回採択における採択理由などを参考にしながら協議を進めてまいりたい。

最終的には、本日の議論を踏まえ、今月26日の定例教育委員会で採択に係る議決を行いたい。

以上の進め方について、ご異議あるか。

（異議なし）

教 育 長 小学校用教科書の協議の進め方については、後ほど改めて説明させていただく。長時間の審議となるが、よろしくお願ひしたい。

それでは、協議に移る。

最初に、国語・書写・地理・歴史・公民・地図・数学・理科の8種目についてまとめて協議を行う。

事務局から、各教科の学習指導要領の目標と調査研究委員会、協議会の報告、併せて前

回の採択理由と4年間の使用実績等について説明をお願いします。

教育指導課長 各担当指導主事よりご説明させていただきます。

指導主事 中学校国語について説明する。

中学校国語では、国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てることを目標としている。

別紙資料3をご覧ください。

調査研究委員会では前回採択時の調査研究内容を確認し、その内容について検討するとともに、今年度の採択の観点に沿って改めて調査研究を実施し、報告書に取りまとめた。

国語の全発行者の特長は、1ページから6ページにお示ししている。

別紙資料1をご覧ください。

協議会においては、各発行者の特長について改めて協議を行った。協議会が取りまとめた意見は、協議会報告書のとおりである。

国語の全発行者の特長は、1ページから2ページにお示ししている。

現在使用中の教科書発行者は、光村図書出版である。

平成27年度にこの発行者が採択された際の採択理由は、単元ごとに「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の言語活動がバランスよく配置されており、身に付けたい力が系統的、段階的に育つように工夫されている。巻頭部分において、小学校とのつながりを表す記載や1年間に学ぶ内容が明示されており、学習の見通しを持って、生徒が主体的に学んだり、学習の目標を立てたりしやすい構成になっているなどとなっている。

調査研究委員会からは、4年間の使用実績として、「書くこと」のモデル文が分かりやすく、書くことが苦手な生徒にとって取り組みやすかったほか、読書の「紹介箱」を作ることで図書室の利用者を増やすことができ、読書に対する興味・関心を高めることに効果的であったと報告されている。

指導主事 中学校書写について説明する。

中学校書写では、指導計画の作成と内容の取り扱いの2. 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(2)に示す事項についてで、ア. 文字を正しく整えて速く書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てるよう配慮すること、イ. 硬筆及び毛筆を使用する書写の指導は各学年で行い、毛筆を使用する書写の指導は、硬筆による書写の能力の基礎を養うようにすること、ウ. 指導に配当する授業時数は、第1学年及び第2学年では年間20単位時間程度、第3学年では年間10単位程度とすることと示している。

別紙資料3をご覧ください。

調査研究委員会では前回採択時の調査研究内容を確認し、その内容について検討するとともに、今年度の採択の観点に沿って改めて調査研究を実施し、報告書に取りまとめた。

書写の全発行者の特長は、7ページから12ページにお示ししている。

別紙資料1をご覧ください。

協議会においては、各発行者の特長について改めて協議を行った。協議会が取りまとめた意見は、協議会報告書のとおりである。

書写の全発行者の特長は、3ページにお示ししている。

現在使用中の教科書発行者は、光村図書出版である。

平成27年度にこの発行者が採択された際の採択理由は、書く力を育てることに重点が

置かれ、文字を正確に読みやすく書くという書写の基礎的・基本的な知識や技能を発達の段階に応じて身に付けられるよう学習活動が構成されていると、教材が精選されており、書写の限られた授業時数で指導するのに適している。また、コラムや実生活に役立つ教材が充実しており、実用性を重視するよう配慮されているなどとなっている。

調査研究委員会からは、4年間の使用実績として、行書の学習では、学年ごとにその特長を押さえながら、段階的に学ぶことができる配列や教材が工夫されており、生徒の目標達成に向けて有効に活用することができたと報告されている。

指 導 主 事 中学校地理について説明する。

中学校社会では、広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質を養うことを目標としている。

別紙資料3をご覧ください。

調査研究委員会では前回採択時の調査研究内容を確認し、その内容について検討するとともに、今年度の採択の観点に沿って改めて調査研究を実施し、報告書に取りまとめた。

地理の全発行者の特長は、13ページから16ページにお示ししている。

別紙資料1をご覧ください。

協議会においては、各発行者の特長について改めて協議を行った。協議会が取りまとめた意見は、協議会報告書のとおりである。

地理の全発行者の特長は、4ページにお示ししている。

現在使用中の教科書発行者は、帝国書院である。

平成27年度にこの発行者が採択された際の採択理由は、単元ごとに学習内容の観点や課題が示されており、学習が進めやすい。また、単元末のページでは、学習したことをまとめたり振り返ったりすることができるように工夫されていることと、図や資料の読み取り方や使い方などについてのコラムが充実しており、技能習得を段階的に学ぶことができるよう工夫されていることなどとなっている。

調査研究委員会からは、4年間の使用実績として、単元ごとに学習課題が設定されているため、学習に対する見通しや目標が立てやすく、生徒の主体的な学習に効果的であったと報告されている。

続いて、中学校歴史について説明する。

中学校社会の目標は、先ほどと同じである。

別紙資料3をご覧ください。

調査研究委員会では前回採択時の調査研究内容を確認し、その内容について検討するとともに、今年度の採択の観点に沿って改めて調査研究を実施し、報告書に取りまとめた。

歴史の全発行者の特長は、17ページから24ページにお示ししている。

別紙資料1をご覧ください。

協議会においては、各発行者の特長について改めて協議を行った。協議会が取りまとめた意見は、協議会報告書のとおりである。

歴史の全発行者の特長は、5ページから6ページにお示ししている。

現在使用中の教科書発行者は、帝国書院である。

平成27年度にこの発行者が採択された際の採択理由は、各章の導入にある「タイムトラベル」により、生徒が各時代を大観し、歴史の学習に興味を持って主体的に取り組める

ように工夫されていることと、各章末にある「学習をふりかえろう」で、学習内容の定着が図れるようにさまざまな工夫がなされているなどとなっている。

調査研究委員会からは、4年間の使用実績として、各単元の最後にある「学習をふりかえろう」で時代区分ごとに大観しながら、歴史の流れや文化の特色、他国とのつながりに着目しながら確認することができたほか、各単元の導入にある「タイムトラベル」で、その時代の人々の生活の様子を取り上げながら、生徒の興味・関心を引き出すことができた」と報告されている。

中学校公民について説明する。

中学校社会の目標は、先ほどと同じである。

別紙資料3をご覧ください。

調査研究委員会では前回採択時の調査研究内容を確認し、その内容について検討するとともに、今年度の採択の観点に沿って改めて調査研究を実施し、報告書に取りまとめた。

公民の全発行者の特長は、25ページから32ページにお示ししている。

別紙資料1をご覧ください。

協議会においては、各発行者の特長について改めて協議を行った。協議会が取りまとめた意見は、協議会報告書のとおりである。

公民の全発行者の特長は、7ページから8ページにお示ししている。

現在使用中の教科書発行者は、東京書籍である。

平成27年度にこの発行者が採択された際の採択理由は、「公民にアクセス」と「公民にチャレンジ」により、生徒が主体的に学ぶ意欲を高められるように工夫されていることと、図や写真、資料を豊富に掲載し、巻末の資料や用語解説も充実させることで生徒の理解が深まるように配慮されていることなどとなっている。

調査研究委員会からは、4年間の使用実績として、「公民にチャレンジ」などのコラムを中心に、写真、グラフなどが豊富であり、資料の読み取りにより、思考、判断、表現する活動を効果的に行うことができたほか、「公民にアクセス」は、生徒が主体的に課題を解決するための意識と態度を育てる上で効果的であったと報告されている。

中学校地図について説明する。

中学校地図の目標は、先ほどの社会と同じである。

別紙資料3をご覧ください。

調査研究委員会では前回採択時の調査研究内容を確認し、その内容について検討するとともに、今年度の採択の観点に沿って改めて調査研究を実施し、報告書に取りまとめた。

地図の全発行者の特長は、33ページから34ページにお示ししている。

別紙資料1をご覧ください。

協議会においては、各発行者の特長について改めて協議を行った。協議会が取りまとめた意見は、協議会報告書のとおりである。

地図の全発行者の特長は、9ページにお示ししている。

現在使用中の教科書発行者は、帝国書院である。

平成27年度にこの発行者が採択された際の採択理由は、鳥瞰図が鮮やかで見やすく、世界や日本の諸地域の特徴が大観できるように工夫されていることと、世界の環境問題の現状や原因、対策などについて取り上げられ、資料が充実していることなどとなっている。

調査研究委員会からは、4年間の使用実績として、大鳥瞰図、写真、資料やイラストを豊富に配置されたページがあり、生徒に学習地域を大観させイメージを抱かせることがで

きたと報告されている。

指導主事 中学校数学について説明する。

中学校数学では、数学的活動を通して、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察し表現する能力を高めるとともに、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、それらを活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てることを目標としている。

別紙資料3をご覧ください。

調査研究委員会では前回採択時の調査研究内容を確認し、その内容について検討するとともに、今年度の採択の観点に沿って改めて調査研究を実施し、報告書に取りまとめた。

数学の全発行者の特長は、35ページから42ページにお示ししている。

別紙資料1をご覧ください。

協議会においては、各発行者の特長について改めて協議をした。協議会が取りまとめた意見は、協議会報告書のとおりである。

数学の全発行者の特長は、10ページから11ページにお示ししている。

現在使用中の教科書発行者は、東京書籍である。

平成27年度にこの発行者が採択された際の採択理由は、各章とも、学習のはじめに学習課題が示され、「例」「たしかめ」「基本の問題」「章の問題」「もっと練習」「補充の問題」等を設け、基礎・基本の習得から応用発展までの学びの段階に対応できるように工夫されている。1学年の巻頭に「数学の世界へようこそ」や、巻末に「算数のふりかえり（まとめ編）」を設けることで、小中のつながりを意識した構成となっている等となっている。

調査研究委員会からは、4年間の使用実績として、問題が基礎的・基本的なものからスモールステップで配置され、その後に「学び合い」のページが設定されていることにより、数学的な思考力や表現力を伸ばすのに効果的であったと報告されている。

指導主事 中学校理科について説明する。

中学校理科では、自然の事物・現象に進んでかかわり、目的意識を持って観察、実験などを行い、科学的に探究する能力の基礎と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養うことを目標としている。

別紙資料3をご覧ください。

調査研究委員会では前回採択時の調査研究内容を確認し、その内容について検討するとともに、今年度の採択の観点に沿って改めて調査研究を実施し、報告書に取りまとめた。

理科の全発行者の特長は、43ページから48ページにお示ししている。

別紙資料1をご覧ください。

協議会においては、各発行者の特長について改めて協議を行った。協議会が取りまとめた意見は、協議会報告書のとおりである。

理科の全発行者の特長は、12ページにお示ししている。

現在使用中の教科書発行者は、東京書籍である。

平成27年度にこの発行者が採択された際の採択理由は、巻頭に考察の仕方を詳細に示している。また、「観察、実験」の次ページに「考察」を例示し、科学的な見方や考え方がしっかり身につくように工夫されていると、巻頭の探求の流れというガイダンスが充実している。また、「観察、実験の目的」「結果」「分析」といった学習の流れが整理されており、生徒にとって理解しやすいまとまりのある構成になっているなどとなっている。

調査研究委員会からは、4年間の使用実績として、指導する際、「?（課題）」に対する

結論を「まとめ」として明示しており、学習内容のポイントを押さえることができたという報告されている。

教 育 長 ただいまの説明について、教科ごとにご意見・ご質問があればお願いしたい。

里 村 委 員 説明いただいた科目共通の質問だが、現在使用している使用教科書について、協議会においては、特に変更するに至るほどの課題はないという意見だったということではあるか。

教育指導課長 調査研究委員会を含め協議会でも議論をしていただいたが、特段、変更が必要であるといった内容の意見はなかった。

教 育 長 ほかにないか。

(質疑なし)

それでは、以上8種目については、説明や議論の内容を踏まえると、平成27年度の採択理由及びこれまでの使用実績等、総合的な観点から、各種目とも現在使用している教科書と同一の教科書を採択する方向で事務局に採択理由を整理してもらい、26日に最終的に決定したいと思うが、これにご異議ないか。

(異議なし)

それでは、次に、英語・音楽・器楽・美術・保健体育・技術・家庭の7種目について協議を行いたいと思う。

先ほどと同じように、事務局から、各教科の学習指導要領の目標と調査研究委員会、協議会の報告、併せて前回の採択理由と4年間の使用実績等について、ご説明願いたい。

教育指導課長 担当指導主事から説明させていただく。

指 導 主 事 中学校外国語について説明する。

中学校外国語では、外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養うことを目標としている。

別紙資料3をご覧ください。

調査研究委員会では前回採択時の調査研究内容を確認し、その内容について検討するとともに、今年度の採択の観点に沿って改めて調査研究を実施し、報告書に取りまとめた。

外国語の全発行者の特長は、49ページから54ページにお示ししている。

別紙資料1をご覧ください。

協議会においては、各発行者の特長について改めて協議を行った。協議会が取りまとめた意見は、協議会報告書のとおりである。

外国語の全発行者の特長は、13ページから14ページにお示ししている。

現在使用中の教科書発行者は、東京書籍である。

平成27年度にこの発行者が採択された際の採択理由は、目次に各単元や活動の目標が明確に記されており、生徒が見通しを持って学ぶことができるように工夫されていると、自己表現に向けたPresentationでは、話したり、書いたりして発信するとともに、自身の発表を振り返ることができるように工夫されているなどとなっている。

調査研究委員会からは、4年間の使用実績として、「Activity」及び「Presentation」のページは、生徒の4技能の統合的な運用を促す上で効果的であったと報告されている。

指 導 主 事 中学校音楽（一般）について説明する。

中学校音楽では、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、音楽文化につ

いての理解を深め、豊かな情操を養うことを目標としている。

別紙資料3をご覧ください。

調査研究委員会では前回採択時の調査研究内容を確認し、その内容について検討するとともに、今年度の採択の観点に沿って改めて調査研究を実施し、報告書に取りまとめた。

音楽（一般）の全発行者の特長は、55 ページ、56 ページにお示ししている。

別紙資料1をご覧ください。

協議会においては、各発行者の特長について改めて協議を行った。協議会が取りまとめた意見は、協議会報告書のとおりである。

音楽（一般）の全発行者の特長は、15 ページにお示ししている。

現在使用中の教科書発行者は、教育芸術社である。

平成 27 年度にこの発行者が採択された際の採択理由は、目次で各教材の学習のめあてが一目で分かるように提示されている。また、「音楽学習 MAP」で学習内容と各教材を系統的に関連付け、生徒が見通しを持って主体的に学習が進められるように工夫されていることと、「My Voice」を各学年に掲載し、変声期を踏まえた発声について丁寧に取り扱うことで、基礎的な歌唱の技能を養うことができるように工夫されていることなどとなっている。

調査研究委員会からは、4 年間の使用実績として、すべての歌唱、創作、鑑賞教材において、学習目標と具体的な学習活動が示されており、生徒の主体的な学習が促され、生徒はしっかり学びを振り返ることができるかと報告されている。

中学校「音楽（器楽合奏）」について説明する。

学習指導要領の目標は、音楽（一般）の際に説明したとおりである。

別紙資料3をご覧ください。

調査研究委員会では前回採択時の調査研究内容を確認し、その内容について検討するとともに、今年度の採択の観点に沿って改めて調査研究を実施し、報告書に取りまとめた。

音楽（器楽合奏）の全発行者の特長は、57 ページ、58 ページにお示ししている。

別紙資料1をご覧ください。

協議会においては、各発行者の特長について改めて協議を行った。協議会が取りまとめた意見は、協議会報告書のとおりである。

音楽（器楽合奏）の全発行者の特長は、16 ページにお示ししている。

現在使用中の教科書発行者は、教育出版である。

平成 27 年度にこの発行者が採択された際の採択理由は、琴について、写真などを用いて丁寧に解説したり、アルトリコーダーの運指を楽譜ごとに詳しく図解したりするなど、演奏技能をスムーズに習得できるよう工夫されていることと、巻末口絵に「ギター&キーボード・コード表」とギター奏者が実際にコードを押さえている写真を併せて掲載し、生徒にとって分かりやすく主体的に活動できるよう工夫されていることなどとなっている。

調査研究委員会からは、4 年間の使用実績として、生徒が親しみを持って学習できる楽曲が多く配置されている。また、和楽器を豊富に取り扱っており、たくさんの和楽器を学習することができたと報告されている。

指 導 主 事 中学校美術について説明する。

中学校美術では、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養うことを目標としている。

別紙資料3をご覧ください。

調査研究委員会では前回採択時の調査研究内容を確認し、その内容について検討するとともに、今年度の採択の観点に沿って改めて調査研究を実施し、報告書に取りまとめた。

美術の全発行者の特長は、59ページから62ページにお示ししている。

別紙資料1をご覧ください。

協議会においては、各発行者の特長について改めて協議を行った。協議会が取りまとめた意見は、協議会報告書のとおりである。

美術の全発行者の特長は、17ページにお示ししている。

現在使用中の教科書発行者は、日本文教出版である。

平成27年度にこの発行者が採択された際の採択理由は、見開きのページの教科書美術館の「東へ、西へ…」や「刻まれた祈り」で取り上げる作品を精選して掲載し、生徒の学習意欲が高まるように工夫されている。「教科書美術館」や巻末の年表では、日本と世界の交流から文化を捉え、仏像美術や建築物、庭園を扱った題材も交えて、美術文化の理解が深まるように内容が配列されているなどとなっている。

調査研究委員会からは、4年間の使用実績として、題材設定や学習内容の提示の切り口が魅力的で、生徒の発達の段階に応じて学習を進めるのに効果的であった。「学びのねらい」の明確な提示、話し合い活動の例示により、良さや美しさなどを味わう鑑賞の能力を育てることができたと報告されている。

指導主事 中学校保健体育について説明する。

中学校保健体育では、心と体を一体として捉え、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てることを目標としている。

別紙資料3をご覧ください。

調査研究委員会では前回採択時の調査研究内容を確認し、その内容について検討するとともに、今年度の採択の観点に沿って改めて調査研究を実施し、報告書に取りまとめた。

保健体育の全発行者の特長は、63ページから66ページにお示ししている。

別紙資料1をご覧ください。

協議会においては、各発行者の特長について改めて協議を行った。協議会が取りまとめた意見は、協議会報告書のとおりである。

保健体育の全発行者の特長は、18ページにお示ししている。

現在使用中の教科書発行者は、東京書籍である。

平成27年度にこの発行者が採択された際の採択理由は、各章において、「やってみよう」では動機づけを図り、「考えてみよう」では学習したことを活用して考える構成により、学習のパターンが捉えやすく、生徒の主体的な学びを促すよう工夫されていることと、各章末に「確認の問題」「活用の問題」「学習のまとめ」と章末資料があり、生徒が自ら学ぶことができるように工夫されている。また、巻末に「キーワード」集が掲載されており、生徒の自主的な学びを支援できるように配慮されているなどとなっている。

調査研究委員会からは、4年間の使用実績として、習得した知識を活用して取り組む「考えてみよう」の学習活動が、思考力や判断力を育てるとともに、より確かな知識の習得に効果的であったと報告されている。

指導主事 中学校技術・家庭（技術分野）について説明する。

中学校技術・家庭では、生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てることを目標としている。

別紙資料3をご覧ください。

調査研究委員会では前回採択時の調査研究内容を確認し、その内容について検討するとともに、今年度の採択の観点に沿って改めて調査研究を実施し、報告書に取りまとめた。

技術・家庭（技術分野）の全発行者の特長は、67 ページから 70 ページにお示ししている。

別紙資料1をご覧ください。

協議会においては、各発行者の特長について改めて協議を行った。協議会が取りまとめた意見は、協議会報告書のとおりである。

技術・家庭（技術分野）の全発行者の特長は、19 ページにお示ししている。

現在使用中の教科書発行者は、開隆堂出版である。

平成 27 年度にこの発行者が採択された際の採択理由は、小学校とのつながりを意識しながら、目次やガイダンスによって学習の見通しを持たせることで、生活の中で活用されている技術について考えさせたり、関心を持たせたりするよう配慮されている。「情報セキュリティと人権」「個人情報」「知的財産権」などの情報モラルについて丁寧に扱っており、将来にわたり基礎・基本となる知識及び技能を習得する学習の充実が期待できるなどとなっている。

調査研究委員会からは、4年間の使用実績として、実生活を踏まえた課題が取り上げられており、問題解決的な学習が展開しやすく、生活を工夫し創造する力の育成に効果的であったことなどが報告されている。

指 導 主 事 中学校技術・家庭（家庭分野）について説明する。

教科の目標は、技術分野と同じである。

別紙資料3をご覧ください。

調査研究委員会では前回採択時の調査研究内容を確認し、その内容について検討するとともに、今年度の採択の観点に沿って改めて調査研究を実施し、報告書に取りまとめた。

家庭分野の全発行者の特長は、71 ページにお示ししている。

別紙資料1をご覧ください。

協議会においては、各発行者の特長について改めて協議を行った。協議会が取りまとめた意見は、協議会報告書のとおりである。

家庭分野の全発行者の特長は、20 ページにお示ししている。

現在使用中の教科書発行者は、開隆堂出版である。

平成 27 年度にこの発行者が採択された際の採択理由は、「生活の課題と実践」の事例が豊富であり、小題材ごとの「学習の目標」や「振り返り」、題材ごとの「学習のまとめ」から発展的な学習につなげやすく、系統的な学習に結び付くように工夫されている。「災害に遭ったときの食事」や「災害への備え」、防災教育に関わる視点が各題材に盛り込まれ、実生活でも活用できるように工夫されているとなっている。

調査研究委員会からは、4年間の使用実績として、各小項目に学習の目標が明記され、「導入課題」「本文」「振り返り」という構成で、基礎的・基本的な知識と技術を系統的に学習することができたほか、実践的・体験的な学習活動が豊富に設定されており、実生活につなげることができたと報告されている。

教 育 長 ただいまの説明について、全体的あるいは教科ごとのご意見、ご質問があればお願いしたい。

中 村 委 員 英語について質問させていただく。

F者のところだが、文法配列の工夫があると書いてあるが、具体的にはどのようなところか。

指 導 主 事 他者がbe動詞、「is」「am」「are」というようなbe動詞から導入しているのに対し、先に一般動詞、「play」であるとか「like」であるとか、そういった動詞のほうを先に導入している点がある。生徒が自己表現しやすいような特長かと思う。

花 輪 委 員 全体を通してだが、前半の議論と同じように質問させていただきたいのだが、調査研究委員会では、先ほどの紹介だと、全てポジティブに捉えているような意見であったということだが、特段、教科書を変えるべきというような強い意見はなかったと、そういう理解でよろしいか。

教育指導課長 ただいま説明した質問についても、使用実績等にもあるように、おおむね高い評価の報告があり、変更が必要であるという意見はなかった。

教 育 長 ほかにないか。

里 村 委 員 音楽について質問させていただきたい。

音楽は、一般と器楽合奏と、2つに分かれていて、たまたま今使用している教科書の出版者が異なるということである。これはどういうふうに今皆さんが考えていらっしゃるのかお尋ねしたい。もとより先入観に捉われることなくそれぞれのベストの教科書を選ぶということが基本だとは思いますが、あわせて出版者が同じであれば、なおいいのではないかなと思ったりもして、これからのことだが、その辺のところをどう今考えていらっしゃるのかお尋ねしたい。

指 導 主 事 学校現場の先生方や調査研究委員の方々から、同じ発行者にした方が良いという意見はなかった。それぞれの特長で選択した結果として、同じか、違っているかということと考えている。

教 育 長 ほかにないか。

(質疑なし)

それでは、以上7種目についてご議論いただいたが、議論の内容を踏まえ、平成27年度の採択理由及びこれまでの使用実績等、総合的な観点から、各種目とも現在使用している教科書と同一の教科書を採択する方向で事務局に採択理由を整理してもらい、26日に最終的に決定したいと思う。これにご異議ないか。

(異議なし)

それでは、次に、小学校用教科書についての審議に移る。

初めに、小学校用教科書の協議の進め方についてである。

まず、事務局から学習指導要領における目標や協議会報告における各発行者の特長等について説明を受けた後、教科書見本を手に取りながら協議を行うこととしたいと考えている。

教科書見本については、事前に事務局がお届けし、既にご覧いただいているものと思う。また、報告書等の各種資料にも既に目を通していただいていることから、この場では特別に閲覧の時間は設定せず、協議に十分な時間をとりたいと考えている。

協議については、初めに各委員から、仙台市の採択方針の観点を踏まえて、協議会報告書や調査研究会報告書等を参考にしながら、発行者の特長、つまり、優れた点についてご

発言いただきたい。

各委員から一通りご意見をいただいたところで、4者以上の発行者がある場合については、各委員から推薦する発行者を3者挙げていただき、推薦数の多い上位3者に絞って、さらに議論を深めてまいりたいと思う。発行者が3者以下の教科については、こういった推薦という形はとらないものとする。

このように絞り込んだ発行者あるいは3者以内の発行者の中から、再度、仙台市の採択の観点に沿ってご意見をいただき、議論を深めながら、全員の合意の下、1者に絞り込んでいきたいと思う。

最終的な採択については、本日の議論を踏まえ、26日の定例教育委員会で確認の上、採択に係る議決を行いたいと思う。

以上の進め方について、これにご異議ないか。

(異議なし)

それでは、小学校用教科書については、本日以降、このような進め方で協議を行いたいと思う。よろしくお願ひしたい。

それでは初めに、小学校外国語について協議を行う。

事務局から、学習指導要領の目標等について説明をお願いしたい。

教育指導課長 外国語担当指導主事より説明させていただく。

指導主事 小学校外国語では、外国語によるコミュニケーションにおける見方、考え方を働かせ、外国語による「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することを目標としている。

新しい学習指導要領では、外国語に関して、小学校中学年から外国語活動を導入し、「聞くこと」「話すこと」を中心とした活動を通じて外国語に慣れ親しみ、外国語学習への動機づけを高めた上で、高学年から教科学習「外国語」を新設し、発達の段階に応じ、段階的に文字を「読むこと」「書くこと」を加え、総合的・系統的に扱うこととした。

協議会において取りまとめた小学校外国語の全発行者の特長は、別紙資料2報告の別紙1の1ページにお示ししている。

主な特長について、まずA者は、5年生から6年生の2年間にわたって、コミュニケーションの基礎的内容をバランスよく配置しており、コミュニケーション能力が発達の段階に合わせて身に付くように配慮されているということである。

次に、B者は、各単元に取り組みやすいアクティビティが設けられており、児童が意欲的に学習できるように工夫されているということである。

次に、C者は、文部科学省で発行している共通教材との関連性を意識した内容になっており、教科化への配慮が見られるということである。

次に、D者は、学習の進め方が分かりやすく示されているので、児童も教師も見通しを持って学習に臨めるように工夫されているということである。

次に、E者は、「自分の町しょうかい」が地域を愛する心を育みながら実生活と結びついた英語での活動が可能となる内容となっているということである。

次に、F者は、付録の「ペンマンシップ・シート」で練習の機会を増やし、CAN-DOシートで達成感を持たせられるような工夫がなされているということである。

次に、G者は、UnitごとにGOALが示されており、目標を持って学習に臨むことができ、Partごとに自己評価ができるように工夫されているということである。

教 育 長 ただいまの事務局の説明について、何かご質問はあるか。

花 輪 委 員 今回から教科化ということで、高学年で教科として取り上げて教科書を使って教えるということになったが、これまでどうやってきていたのか。それを踏まえて、今後どういう方向に持っていこうとしているのかを教えてください。

指 導 主 事 小学校では、平成 23 年度から、小学校第 5・6 学年に年間 35 時間の外国語活動の時間が設置された。外国語活動は、これまでの取組により児童の高い学習意欲、中学生の外国語教育に対する積極性の向上といった成果を上げている一方で、例えば音声中心で学んだことが中学校の段階で音声から文字への学習に円滑に接続されていない。日本語と英語の音声の違いや発音と綴りの関係、文構造の学習において課題がある。高学年は、児童の抽象的な思考力が高まる段階であり、より体系的な学習が求められるなどの課題が指摘されてきた。

そこで、小学校における外国語教育のさらなる充実を図るため、高学年の外国語科の目標は、前述のような課題を踏まえ、「知識及び技能」「思考力・判断力、表現力」「学びに向かう力、人間性等」の三つの資質・能力を明確にし、「聞くこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「読むこと」「書くこと」の五つの領域で構成される教科として、外国語科が導入され、各学校段階の学びが接続されるとともに、外国語を使って何ができるようになるかという観点から、改善、充実が図られている。

この外国語活動との違いは、これまで扱ってきた「話すこと」「聞くこと」に加え、段階的に「読むこと」「書くこと」を扱うこと、授業時間が 35 時間増え 70 時間になることとなっている。

花 輪 委 員 加えての質問だが、中学年である 3 年生・4 年生に対してはこういう教科書を準備しないわけだが、そこでの標準化はなされていると理解してよろしいか。つまり、ある程度の学習をして、5 年・6 年と教科書を使っていくが、そのときに 3・4 年までの学習も標準化されていると理解してよろしいか。

指 導 主 事 中学年用には、文部科学省のほうで共通教材を用意しており、そちらで学習することになっている。

吉 田 委 員 関連質問になると思うが、今まで行われてきた外国語活動、今の説明では音声というものを中心にしてということだったが、実際に「書く」活動というのは 5・6 年生においてなかったのかどうか、教えてください。

指 導 主 事 これまで外国語活動は音声に関する慣れ親しみが主体であったので、書いたり、読んだりということを技能として求めていることはなかった。移行期間に入り、共通教材という話題が先ほどもあったが、文部科学省が発行した共通教材を使って「書くこと」「読むこと」にも徐々に取り組んでいるという現状である。

吉 田 委 員 その移行期の在り方について「書く」活動が入ってきたわけだが、四線譜が各者によって違っているところがあるが、その関係で、中学校での四線譜の間隔がどうなっているのか確認させていただきたい。

指 導 主 事 現行本の四線譜は幅が均等になっている。

里 村 委 員 60 年ぐらい前に、中学校で英語を勉強したのだが、当時との比較が適切かどうかかわからないが、今の学習指導要領で使われている言葉で言うと、「音」ということについて実はほとんど英語で触れなかった。英語の歌を歌うわけでもなく、英語を聞くわけでもなく、そして、最初の英語が「I am a boy.」だった。それを女性の生徒にも言わせていたという、非常に滑稽なことなのだが、いずれにしても、読み・書き・話す・聞く、その中で教科書を見ていて、やはり「音」との接触ということに各者とも非常に留意した編集になっ

ていると思った。

質問は、今、「音」に触れる、音から英語を勉強するというアプローチは、特に学習指導要領等についてあるいは現場の先生方も含めて、どのくらいのウエイトを持って教育に当たっていらっしゃるのか、そのところを聞きたい。

指導主事 中学年外国語活動の学習指導要領では、英語の特徴等に関する事項というところの中に、英語の音声やリズムに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、言葉のおもしろさや豊かさに気付くこととある。従って、各学校ではそういった「音」への慣れ親しみを中心に指導がなされている。

高学年の外国語科では、このような慣れ親しみを基に、現代の標準的な発音、語と語の連結による「音」の変化、語や句、文における基本的な強勢、文におけるイントネーション、区切りなどを学習することになっている。

教 育 長 ほかにないか。

(質疑なし)

それでは、各発行者の教科書見本本について、それぞれご意見をいただきたい。まずは加藤委員、いかがか。

加 藤 委 員 それでは、A者から順に挙げてまいりたいと思う。

まずは、どの教科書についても非常によく考えられているなど全体として思った。

A者についてだが、ページの下に細かなリンク先が明記されていて、教師だけでなく児童生徒にも分かりやすくリンク先に飛ぶことができる。それから、「聞く」「読む」「話す」「書く」の学習がパターンの示されていて、児童にも大変わかりやすく受け取ることができるということがある。

内容の興味についても、「Open the door 1～3」のページを設けることで、全体の構成が大枠で明確に示されている。5年生では自分のことを紹介する、地域のことを紹介する、日本のことを紹介する、それが6年生になると世界の国々を知って紹介する、世界と日本のつながりを考える、そして、中学校への扉を開けるということで、学年のつながりや中学校とのつながりが分かりやすい。

また、英語を教えるための題材というよりは、2年間で連続したテーマ、特に自己と自国の社会文化や国際社会文化がつながるための英語のコミュニケーションを教えるための英語になっているという印象が残った。

語句に関しては、「Picture Dictionary」という別冊を用意しており、教科書と切り離して用いることができるため、学年を超えて活用することができる。

導入と振り返りについても、前年度の振り返りとつながりが簡単に示されており、これも親切だと思った。

スピーチに挑戦ということで、学んだことの応用も図っている。この部分のゴールは中心となる活動の「HOP」「STEP」「JUMP」の内容に対応していて明確である。簡単な自己評価と振り返りも行うことができるようになっていた。

また、テキストとワークブックを兼ねたつくりになっていて、大判ではあるが、軽くて、それもありがたいなと思った。

B者について。映像、音声等、「聞くこと」が導入になって、テキストによる「読む」「書く」活動がペア、またグループによる「話す」活動につながっていくという流れがある。

また、「Sounds and Letters」で英語とカタカナの違いについて指摘をしている。例えば、「t」と「d」、「m」と「n」、それから、「b」と「v」などから、6年ではさらに

「th」の発音と「s」とか「z」の違いまで、とても丁寧に指摘してくれている。

また、内容の興味としては、名所や名物マップなどがあって、これも子どもたちには大変ありがたいところかなと思う。

導入と振り返りだが、コミュニケーションをとるときに大切にしたいこととして、相手の顔を見るとか、相手の話をよく聞く、丁寧に伝えよう、自ら進んで、みんなと一緒に、また楽しもうという方法と目標は、学年相応で大変好ましいように思った。

Lessonごとに振り返りがあり、具体的で大変子どもたちにとっていいと思う。何々の尋ね方を知って言うことができたとか、なぞり書きができたとか、分かりやすく話せた、こういった具体例がある。また、よく聞こうとしたなどのように、やろうとした努力を取り上げてくれるところもありがたいところである。いずれにしても、「読む」「聞く」「書く」「話す」に合わせた振り返りになっていた。

C者については、「聞く」「読む」「話す」「書く」のつながりとバランスについて、「Listen & Talk」「Write & Talk」「Write & Speak」などが明示されていて、児童自身が各技能をどうつなげていくのかということを感じることができるようになっている。

また、5年生の最初にアルファベットとローマ字を扱っているので、教師が児童にローマ字で自分の名前を書かせる際、指導しやすいかなと思った。

また、各 Lesson のコーナーが同じパターンで進んでいくので、児童にとって構造化されており、進行の見通しが大変明確である。

それから、内容に興味を持たせるという意味で、「Story」が盛り込まれているが、「Story」にはなじみのある物語を用いることで、一定の物語の流れを児童が想定しながら、安心して言語のほうに注目することができる。「外来語の説明」「時差時計」「海外旅行の計画」なども子どもたちにとって興味を持てるものになっていた。

導入と振り返りについては、「STEP」「JUMP」ごとに簡単なまとめと振り返りがある。また、その学年の振り返り、学んだことは巻末にまとめがあって、これも使えるかなと思った。中学校へのつながりも意識されていた。

D者について。なぞり書きだけでなく、英文の書き方の決まりについても取り上げて丁寧に解説されている。大文字と小文字のこと、ピリオドの使い方、カンマの使い方、名前や地名の書き方なども丁寧に説明されている。

導入と振り返りについては、前年度の学習の振り返りが「Pre-lesson」で丁寧になされている。大判の教科書なので、導入の場面設定の絵が見開きで大きく示されるために、児童の関心を集めやすいかなと思った。しかも、その本文はその導入の絵の部分を取り上げての展開になるので、より注意を向けさせる工夫となっているように思う。

また、教科書の使い方と時間配分が明記されており、これは児童生徒のためでもあるが、教師にとっても補助となるのではないかなと思った。

Lessonごとの振り返りは具体的で、大変使いやすいと思う。何々の表現を聞き、言うことができた、または〇〇の文を読み、書き写すことができた、伝え、尋ね合うことができたなど、それぞれの技能に合わせた振り返りになっている。

E者について。聞くことが導入になっており、ペアの活動、グループによる活動など、互いに学び合うコミュニケーション活動につながっている。

また、巻末に付録として「発音クリニック」などがあり、アクセントやイントネーションにも注意することができる。

内容に興味を持たせるという点では、5年生では学習が自己紹介から始まるのは他者と

同じだが、ここでは学年の最後の振り返りに「自分のことを伝えよう」という部分があって、学んだことを使って、より詳しい自己紹介につなげており、年間の学習として統一感がある。巻末の「文字に慣れよう」は、自己学習にも使えるのではないかなと思った。

導入と振り返りについては、表紙の内側に「CAN-DO マップ」があって、各 Lesson を概観でき、同時に自己評価できる欄となっていた。

また、振り返りについては、「わかった」「できた」以外に「何々しようとした」というものがある、できなくてもやろうとしたことを取り上げてくれており、大変うれしかった。

また、最後に、この教科書で学んだことリストというのがあって、ここでは各技能、特に「話す」は「やり取り」と「発表」に分けている。それらの技能が振り返られるようになっていて、また、学年最後の振り返りとしても全てを概観することができるようになっていて、また、中学校へのつなぎも、6年生の巻末に付録として中学校につなげようという点がアピールされていた。

F者について。各技能、どの技能を取り上げているのかが児童生徒にも分かりやすい工夫がされていると思う。相手との良い関係をつくる言葉を意識させていて、断るときにどうするか、何かしてもらったときにどうするか、相手に感心したときはどうするか。頼むとき、謝るときなど、リレーションを作っていくとき、関係作りをしていくときの言葉というものに興味を持たせるところがとてもいいなと思った。

また、相互コミュニケーションの前には、無理のないワークが段階的、積み上げ的に提供されており、その後、相互コミュニケーションのワークとして使えるようになっていて、学習進度の個人差にも対応できると思った。

また、「Alphabet Time」の1から3、「Fun Time」の1から6は、児童がゲームで文字を楽しく覚える提案となっていた。「4つのたいせつ」というのをコミュニケーションのポイントとして挙げている。「笑顔」「目と目を合わせる」「はっきりした声で」「相手の言葉に反応しながら」など、大変分かりやすく意識させているところがよろしい。

また、学年の振り返りも表現ごとに挙げられていて、大変丁寧で、これもいいなと思った。

中学校へのつなぎは、中学校の生活を題材にした「Unit」を設けていること、それから、「英語の学習を続けていこう」というページを作って、英語の使い方のイメージを持たせている点も好感が持てた。

最後のG者。ここではヘボン式のローマ字表の載せ方について工夫がされていた。児童生徒にとってアルファベット、それから、訓令式のローマ字、ヘボン式のローマ字、この使い分けには混乱が生じる可能性がある。通常、巻末に掲載されることが多いが、この本はその点について、まず5年の最初に説明を付した表を掲載していて、6年の最後にも改めて説明しているという点があった。

内容の興味については、各国の生活や習慣を取り上げて、異文化交流への関心を誘う内容になっている。

また、「Pre Unit」のページがあって、前年度の振り返りができるようになっていること、また、Unitごとに、何々が言えるか、尋ねられるか、伝えられるかを聞いており、これもそれぞれの児童生徒が自己評価することができる。

中学校へのつながりの点でも、中学校生活を題材にして意識させているところがあった。色彩も大変穏やかで、重さも適切ではないかなと思った。

教 育 長 中村委員、いかがか。

中 村 委 員 どここの教科書もとても楽しく、見ていて、つい見入ってしまうような感じで、色的にもとてもすてきで、子どもたちの興味を引くものになっているなど感じた。

そして、A者だが、まず歌・チャンツ・アクティビティ・まとめというように音から文字への流れになっていて、Unit の最後にコミュニケーションを通し、学習の振り返りと学習の定着をするように工夫がされている。

そして、5年生では「日本に暮らすわたしたち」、6年生では「世界に生きるわたしたち」というテーマになっており、2年間で日本と外国の文化にも触れられるようになっていくという形をとる。外国語を学ぶという上で、外国の文化に触れるということはとても大切なことであり、外国語を通して日本という国を見られるという工夫がなされている。

また、「Picture Dictionary」という別冊で、たくさんの単語に触れられるようになっていくことや、その中には5年生、6年生で習った基本的な表現の確認や、そして、それを使って自分に合った表現を見つけられるように工夫がされている。

B者について。主に「聞く」活動がとても多く取り上げられていると思う。音と映像を基礎的な表現を身に付けるための入り口として、そして、そこから「読むこと」「書くこと」の活動にスムーズに入れるように工夫がされている。「Listen」や「Activity」など、分かりやすいマークが中にあり、今何をすべきかという学習活動が示されていて、子どもたちも分かりやすい形になっているのだと思う。

また、ほかの教科とのつながりという点で、世界遺産や国語の物語などを取り入れて、工夫がされている点である。また、特長として、日本の名所や名物マップなどがあって、また、世界の人々の暮らしについても取り上げられていて、日本や外国の文化の理解にもつながられる内容になっている。

C者について。「HOP」「STEP」「JUMP」の3段階の構成になっており、子どもたちが見通しを持って学べるように配慮がなされている。教材の配列がどれも同じようにパターン化されていることで、学びのプロセスやポイントがとても分かりやすくなっているのではないかと。「JUMP」などでは、初めて習う外国語で慣れない子どももいると思うのだが、ペアやグループでの活動が多く取り入れられ、子どもたちがお互いに協力して、そして安心に取り組めるように配慮がされているのではないかとと思う。また、見開き構造になっていて、その時間に何を学習するのか、内容が一目でわかるのも、先の見通しが持ててよい点ではないか。

D者について。巻頭の「クラスルーム・イングリッシュ」と「Pre-lesson」で、授業や日常の学校生活で使う英語が確認でき、3・4年生で学習した表現もあり、振り返りもできるような配列になっている。「クラスルーム・イングリッシュ」や「Pre-lesson」というのは、本当に日常使うものということで、勉強になる前のような形であるが、そういうところが重点的に載っているのはとてもいい。

各 Lesson の目標や進め方が明記されていて、終わりには振り返りと「use & check」で学習内容のチェックと定着度を確認することができる工夫がなされている。また、英語でのコミュニケーションが多く、自分の考えを主体的に表現できる工夫もされている。また、中には「コラム」として外国や日本の文化の理解、そして、他教科に関連する内容があり、子どもたちの興味を喚起させる配慮もなされている。

E者について。巻頭の「CAN-DO マップ」は5年生、6年生で習うことの内容が書かれていて、学習の見通しを持つことができるようになっており、学習が終わった後で、また振

り返りもできるようになっている。目次や Lesson の中に関連する他教科の名前が記載されていて、横断的な学習ができるように工夫されている。外国語では、特にコミュニケーションが大切だが、そういったところで、ペアやグループで行う活動が多く取り入れられていて、子どもたちがお互いに教え合い、そして学び合う中で、外国語や日本語でのさまざまなコミュニケーション活動が行えるように配慮されていると感じた。また、中学校につなげようということで、小学校から中学校へスムーズに移行できる工夫もなされているのではないと思う。

F者について。「聞く」活動、そして「話す」活動が多く、慣れない外国語をしっかりと聞くことで集中して学習が行われるように工夫されている。国際手話の紹介や阪神淡路大震災後につくられた歌の紹介、そして、伝わる表現を学ぼうというところで、相手がどんな気持ちになるのかというところで、他人を思いやる心が育つように配慮もされているという感じがした。

そして、自分が伝えたいことが外国語で何と言うのか分からないと先に進めず困ってしまうが、巻末の「絵辞典」は充実したものとなっており、自分の伝えたいことを表現するためにここを利用するのはとても良いことではないかと思う。また、「ペンマンシップ・シート」の活用により、子どもたちに興味を持たせ、主体的に学ぶことができるように工夫されている。

G者について。「Listen and Do」など、活動の指示や説明が短く明示されていて、今何をすべきか、子どもたちが理解しやすい形になっている。「聞く」活動を多くし、その使い方、意味、リズムなどを学習した上で次の段階に入る構成となっているので、子どもたちがより理解しやすい工夫がなされていると思った。そして、学んだことを、Part の終わりには「Activity」としてペアやグループによるコミュニケーション活動に取り入れる設定になっており、目的、場面、状況が明示されているため、学んだことを繰り返し使える工夫がなされているので、より定着すると思う。

それから、「Review」のところでは、（年3回「Review」が入ってくるが）今まで学んだ内容の復習と、そして発展的内容の「CHALLENGE」が設定されていて、学習内容の着実な定着が図られるように配慮されている。そして、やはり色的にもとても穏やかで、負担のない勉強ができるような形になっている。

教 育 長 里村委員、いかがか。

里 村 委 員 まずA者だが、最初の特色は、英語を教えることにとどめないで、外国の方とのコミュニケーションを図る道具としての英語教育をやるという色合いが非常に出ていているように感じた。その目的のために、外国の文化とか生活をテーマに取り入れているということである。

それから、2点目は、やはり、実際のコミュニケーションに活用できる英語教育、これに力が入っている。したがって、英語を学ぶだけではなくて、世界へと視野を広げさせるような編集になっているように感じた。

3点目は、先ほどの質問と少し関係あるのだが、音を通じた英語教育に力点を置いていると感じる。ほかの委員の方がおっしゃったが、ジャンル別に「Picture Dictionary」があり、2年間を通じて繰り返し活用できる。これはなかなか自分のことでも恐縮だが、英語の勉強への辞書は非常に役に立ったという経験があり、いい発想だなと思う。

それから、教科書自体はやや大き目にしてあり、その分、字とか絵を大きく印刷することができているのではないかと思う。それによって、児童に親しみを持たせるという効果

があるのではないかと思う。

B者について。目を引くのは、名所とか名物マップ、それから、世界の暮らしとかキャラクター、それからスポーツ選手など、身近な題材を取り上げることによって児童に英語の興味をまず引き出そうという工夫が見られる。それから、映像や音声を通じて、基本的な技能を習得して、実際にそれが使えるように教科書が設定できていると感じる。巻末のワークシートの単語カードがとても充実しており、児童の意欲を喚起するには効果が大きいだろうと思う。

教科書の形だが、B者はA4判ではなくて、長辺が短くて正方形に近い形である。英語の分量としては発行者の中でもトップクラスの分量をきちっと保っていると感じる。

最後に、国語科の物語教材等を取り上げて、英語と他教科との連携を図ろうとする意図がよく感じられた。

C者について。実生活に結びついた活動が設定してあり、英語を学ぶに当たって、取っつきにくさを緩和して、子どもたちの意欲を引き出す配慮が見られる。「HOP」「STEP」「JUMP」の3段階構成になっているので、進み具合の理解が子どもたち自身でも分かりやすいのではないかと思う。

それから、各 Lesson に「読む」「書く」「聞く」「話す」の基本的な4技能が非常にバランスよく配置されており、そして、児童が段階的に習得できていることを実感できるような、そういう工夫があるように思った。

5年生から6年生に英語の学習がスムーズに進むように、こういう表現があるかどうか分からないが、「6年生の壁」というようなものを余り感じさせないでスムーズに進学できるような、そういう設計になっているように思う。

D者について。各 Lesson のまとめにおいて、日本文化、海外文化あるいは英語以外の教科に関する内容がふんだんに盛り込まれており、英語だけを習得するというのではなくて、多様性を育むことを念頭に置いた編集の意図が十分に感じられた。

それから、Lesson ごとに三つの学習目標が日本語で示されており、関心・興味を高めながら学習するように促している。このところは、英語ではなくて日本語できちっと関心・興味を高めさせるような工夫がされているということは、とてもいいことだと思う。

それから、繰り返し音声を聞かせることで、英語の音やリズムに親しませる工夫がされている。小学校において、音声によるインプット、ここから始まる豊かな言語経験をさせるという方針を感じさせる。書体が大きくて、かつ英語の記載のないページは絵で全体に示しており、見やすいと思う。

E者について。まず、目を引くのは印刷がとても鮮明で、目に優しい色を基調にしている。ほかの発行者にもあるのだが、コーナーごとに色を変えて、一目でどのコーナーか判別できるような工夫もされている。

ここは、生命や人権尊重あるいは他人への思いやり、美しいもの、自然に対する感動等、心を育てる、あるいは道徳との関連を重視した編集になっているように感じた。また、社会科、家庭科など、他の科目との関連に配慮されている。どこの発行者もそうだが、英語そのものを教え切るんだということよりは、広くコミュニケーションの道具として、広い分野に関心を持たせて英語を教えるんだという思想は感じられるが、このE者については、特に人権尊重とか思いやりとか、社会科とか家庭科などへの展開が強く意図されている教科書だと思う。

もう一つ特長的なのは、ペアとかグループで活動を数多く行うように設定してあり、見

童同士で英語を学び合うんだという、モチベーションを高めるような設計になっているように思う。

それから、6年生の教科書を見ると、かなり中学へつなげることを意図した編集になっているというのが特長だと思う。

F者について。「Let's Start」という欄があるのだが、全学年を振り返らせて、オバマ前大統領ではないが、「You can do it!」と、こういうふうには自信を持たせる、君はできるんだぞという工夫が十分に凝らされていると思う。

それから、児童に向けて英語で夢を広げようと。つまり、英語を学ぶすばらしい動機づけになるような語り掛けになっていると思う。必ずしも全員の児童が英語が好きとは限らないので、夢を持たせたり、そういう試みでの教科書になっていると思う。

教材には、例えば車椅子に乗ったキャラクターとか、阪神淡路大震災後に作曲された歌などの紹介があり、広く他を思いやる気持ちを英語の授業でも伝えていこうという意図が感じられる。また、国語、理科など、他教科との関連した内容になっており、また、英語の歌の教材が入っているが、とても魅力的に映った。

G者について。ここも、英語教育を通じて子どもたちの視野を広げさせるんだと、それが目的なんだということ強く感じさせる内容になっている。どの地域でも対応できる内容になっており、仙台市でも各学校や地域の実態に合わせて指導がしやすいと思う。

それから、実生活に結び付いた内容が多くて、したがって、自分の思いや考えを表現しやすいという持っていき方になっていると思う。

もう一つは、ここの特長は、英語の中でも単語習得に力を入れた構成になっているように受け止めた。先生としては、大変教えやすい教科書ではないかなということ想像している。

教 育 長 吉田委員、いかがか。

吉 田 委 員 初めての教科学習ということで、やはり、子どもたちにとって単元学習の見通し、それから、1時間の授業の中の見通しを持って臨めるための工夫、さらには、学んだことが確かに定着できるような工夫がこの教科書にどのように編集されているのかというような観点から見させていただいた。

それで、各者ごとに話すのではなくて、私は幾つかの観点から話をさせていただければと思う。それぞれの観点については、全ての者が取り扱っているのだが、特に私の印象に残ったということで紹介させていただければと思う。

まず1つ目。単元の始めに学習の全体像を見通せる工夫がなされている編集ということで、D者、それからE者と思った。

2つ目。各単元の構成を構造化しており、一定のリズムで年間の学習が展開でき、見通しを持って臨めるような工夫がされているということで、A者、B者、C者、F者と思われた。

続いて3つ目。回数に違いはあるが、学習を振り返る場面を設け、定着を図る工夫をしているということで、A者、C者、E者、G者と思った。

続いて4つ目。学校生活など身近な出来事を教材化し、イメージ化しやすい学習として編集の工夫をしている教科書が、B者、E者と思われた。

さらに5つ目。なじみのある物語、それから、他教科の既習内容の取り扱いなどで、親近感を持たせる編集の工夫をしているのがB者、E者、G者と思った。

6つ目。扱い方に違いはあるが、登場人物の固定化で学習効率を上げようとしているの

が、A者、C者、D者、E者、F者と思われた。

7つ目。授業の導入時に繰り返して行うことを固定化して、定着を図る工夫をしているように印象を持ったのがD者。

そして最後、大変レイアウトがシンプルで、見取りやすく、集中力を高めるような紙面構成に工夫がなされているのがC者、E者という印象を受けた。

教 育 長 花輪委員、いかがか。

花 輪 委 員 この英語、外国語だが、「Speaking」、これは他者とのコミュニケーション及び人前での発表、2つのスキルがあるが、それから、「Reading」「Writing」「Listening」という4技能、5技能を獲得すること、英語を通じて世界に目を向けること、異なる文化を知って多様性を尊重するような姿勢を持つことを求める教科というふうに位置付けられていると思う。

7者の教科書があるが、そのいずれもがそれらの目標を達成するように工夫を凝らしたものとなっているのではないかなと思う。

以下、各者ごとに特長的な点を挙げておく。ただ、今まで多くの委員が指摘されたこととダブっているので、あらかじめご承知おきいただきたい。

まずA社だが、A4判の大型の教科書で、辞書「Picture Dictionary」を別冊にしたというのが特長的である。

内容だが、単元を「Unit」と呼んでいるが、「Starting Out」から始まって、「Let's Try!」「Let's Watch」「Let's Listen」などの組み合わせからなっており、各単元一つ一つの中でバランスよく4技能を習得するような構成となっている。

また、ところどころで「Enjoy Communication」あるいは「Over the Horizon」を設けて、学習をさらに発展、深めるような工夫をしているのが特長である。特に、意図的に世界に目を向けようとしている工夫がうかがわれる。

B者について。B者は「Lesson」と各単元を呼んでいるが、多くのところで、初めに「Watch」、映像から入るところが非常にユニークな個性、特長がある。「Watch」の後は「Think」「Listen」「Activity」などが続き、多くの単元でグループ学習へと導いているのも特長の一つである。巻末には、各単元のワークシートをまとめて配置しており、この中では、「Writing」にも力を入れる構成となっている。

C者について。1学年を3期に分けて、かつ1期ごとに「HOP」「STEP」「JUMP」という3部構成になっているところが、他にはない大きな特長である。特に、仕上げの「JUMP」のところでグループ学習に導いている点も特長だと思う。また、英語の枠に縛られずに、様々な形で他の国のことを知る、そういうコラムを設けているということが印象的である。この者は、分かりやすい多くのイラストが使われていて、非常にフレンドリーな印象を受ける。

次に、D者について。A4判の大型の教科書で、2学年を合わせた総ページ300ページを超える一番分量の多い者であると思う。

単元は「Lesson」と呼んでいるが、「自己紹介」、次の単元が「数、値段」などと、テーマが非常に明快に設定され、かつ明記されているということが児童にとっては分かりやすいのではないか。その中で、関連する歌が入っている。それから、シーン、映像、「Let's Listen」「Let's Chant」などが組み合わされて、ここも各単元で4技能がまんべんなく習得できるような構成となっている。途中に「Writing」の項目があり、教科書内に直接書き入れることができるようになっている。大判であるので、非常に整理された配置、デ

ザインで、すっきりとした印象を受けた。

次に、E者について。この者も「Lesson」と呼んでいるが、短文で冒頭に「クラスの輪を広げよう」などのキャッチフレーズが書かれている。また、たくさんの友達に自己紹介ができるなどの目標、ゴールが明記されており、児童生徒たちが意欲的に取り組める工夫がなされているのではないかなと思う。

各 Lesson の中では、これも構造化されており、「Let's Listen」「Let's Chant」「Let's Play」などが構成されており、とりわけ「Let's Play」が多いかなと思った。すなわち、積極的に自分を表現させるところに力を入れている教科書だと思う。巻末に、「文字に慣れよう」のコーナーを設けており、特に「Writing」の部分をここで集中的にさせているのも特長である。

次に、F者について。技能の一つである「話す」を、冒頭に申し上げたように、他者とのやり取りのスキル、それから、人前での発表のスキルの二つにきちんと分けており、それぞれのスキルアップを図る構成となっているのが特長であると思う。

「Unit」とこの者は呼んでいるが、最初にゴールを示した後で、「story」から始まって、「Let's Play」などが組み合わさっており、ここでも四つのスキルをバランスよく獲得するような構成を採用している。

教科書の途中に、数カ所だが、「Review 世界の友達」のコーナーがあり、特に世界各国の年代の仲間、同じ学年の仲間が映像で紹介するようになっているというのが非常に良いアイデアであると思う。

この者の教科書もイラストを多用し、全体のデザインもすっきりしているように私には思えた。

最後に、G者について。この者は「Unit」と単元を呼んでいる。同じように4スキルを獲得させる構成だが、「Listen and Guess」「Listen and Do」「Say and Write」のように、1つのところで2つのスキルを組み合わせさせて習得するような工夫がなされているというのが特長だと思う。

各 Unit の最後には、「Looking Back」が設けられて、振り返りをさせている。また、ところどころに設けた「Let's Read and Write」では、文字と発音との関係、すなわち音韻学というのか、そこが扱われているというのが非常に大きな特長だと思う。大変いいことだと思う。さらに、最後の「Review」のところでは、自分の力がどの程度ついたのかをチェックさせる役割を担わせているというのも特長だと私は思った。

教 育 長 阿子島委員、いかがか。

阿 子 島 委 員 まず、7者とも内容にさまざまな工夫がされていて、本当に興味深い内容の教科書が多かったと思う。特に、イラストや写真などがたくさん使われているので、子どもたちが英語を理解するのにとても分かりやすいと思った。また、繰り返し活用できるような英文や場面設定がされていたり、児童が対話をしたくなるような題材を豊富に取り上げるなど、コミュニケーションを図る基礎となる資質や能力を育てるのに、いろいろと本当に工夫されていると感じた。

それでは、まずA者から述べさせていただく。最初に、教科書の使い方や「Picture Dictionary」の使い方も説明されているので、授業だけではなく、家庭における自主学習も進めやすいのではないかな。また、5年生では「日本」、6年生では「世界」をテーマに構成されており、学年を追って、児童の意欲が高められるように工夫されている。各 Unit の最後にある「Over the Horizon」のところでは、世界の文化に触れて国際的な視野を広

げることができるように配慮されているとともに、世界に広がる日本文化や世界で活躍する日本人の紹介などもあり、子どもたちが興味を持って英語学習に取り組める。さらに、6年生の「Enjoy Communication」のSTEP 1では、主語と動詞に背景色が付いていて、中学校での学習につながるような工夫がなされている。

次に、B者について。学年の目標を冒頭に提示し、各 Lesson の最初に単元の目標を示して、児童が目標を意識しながら各活動を進めていく構成となっており、各自が見通しを持って学習しながら、自己評価を行ったりできるように工夫されている点がよかった。

「聞く」活動も多く取り入れられており、「Let's Listen」のコーナーでは英文の記載が少なく、聞くことに集中できるように感じられた。さらに、「Sounds and Letters」では、日本人が間違いやすい発音の違いについて文字ごとに区分されていて、発音学習の導入として分かりやすい。各 Lesson において十分なインプットを行った後で、「やり取り」や「読むこと」「書くこと」の活動が設定されており、英語の歌や辞書の使い方など、発展的な学習にも対応している。6年生の最後の Lesson では、中学校についての内容が記載されているので、中学校での学習につながる工夫がなされている。

次に、C者について。教科書の使い方が始めに記載されていて、「HOP」「STEP」「JUMP」の3段構成で学ぶ内容となっており、児童が段階的に学習できるように配慮されている。また、各学年の巻末に CAN-DO リストが掲載されていることで、学習の目標が明確になるとともに、児童の自己評価がしやすい工夫がされていると感じた。さらに、英語圏のみならず、世界のさまざまな言語を紹介し、世界の時差も分かるように掲載されているし、日本や世界各地の自然や文化を取り上げて社会科との関連を図るなど、各教科との関連が図られた題材が多数配置され、学習の効果が上がるように工夫されている。

なお、ペアやグループの活動により、児童自らの気持ちや考えを伝えられる場面や Lesson ごとのまとめの段階に、学んだことを活用する活動が設定されているなど、さまざまな工夫が見受けられた。

次に、D者について。教科書の使い方の説明が詳しく、各 Lesson の扉には目標と学習の進め方が明示され、Lesson の最後には、「Check Time」で学びを振り返ることができるようになっているなど、児童自身が学びの自己評価をできるように工夫されている。

「Pre-lesson」では、前学年の復習がしっかりと記載されているのが良いと思う。そのほか、多国籍の登場人物との交流場面が学習内容となっているので、児童が自分のクラスと比較したり、重ね合わせたりしながら意欲的に取り組めるように工夫されている。

また、6年生の七夕が記載されているコーナーでは、仙台の七夕まつりの写真も載っていた。意外と子どもたちはこういう小さいものを探るのが好きなので、いろいろと興味を持つのではないか。なお、一つの活動が 15 分で行える分量になっているので、各学校の実態に合わせて柔軟に対応できるのも、よく配慮されている。

次に、E者について。各学年の巻頭の「CAN-DO マップ」で1年間の学習内容の見通しを持たせて、できるようになったことを確認しながら学習を進めることができるように配慮されている。主に5年生は身近な社会、6年生は世界との関わりについての題材を扱っており、児童の視点を広げさせる題材の配列になるよう工夫されている。また、「文字に慣れよう」の活動を通して、文字と音、アルファベット、文の書き方が段階的、かつ、系統的に学習できるとともに、ページ数の数字の横に英単語の綴りが記載されているのがとても良かった。数字だけ後から覚えようと思うのではなく、常に教科書を開きながら、この

数字はこう書くのだというのを意識しなくても、普段から見慣れていくのはとてもいい。最後に、中学校へつなげようと、中学校で学習する内容の一部が記載されていることもよかったと思う。

一つの単元が 15 分で行えるように、短い時間でも対応できるように配慮されていることも、英語に親しんできた子どもたちには、この時間だけとって終わるのではなく、常に短い時間でも使えることがいいのではないか。

次に、F者について。教科書の使い方や CAN-DO が始めに記載されているので、児童自身が 1 年間で学ぶ内容を把握でき、自己評価も行いながら学習を進めることができる。また、Unit は「HOP」「STEP」「JUMP」で構成されており、「聞く活動」「話す活動」「書く活動」と無理のないスモールステップで進められるように配慮されている。12 か国の同世代の子どもたちの生活の様子を知ることができるようになっており、多様な文化と言語への興味・関心を高めることができるように工夫されているのがよいと思う。

ページ数のところに英語の綴りが記載されている。数字のほかに、下のところにはアルファベットについてのイラストが小さく載っていた。AだとAがつくものと。子どもたちは小さなものを見つけて、そこでこの絵は何と言うのだろうというように、意外と英単語を覚えていくのではないか。

最後に、G者について。最初に、教科書の構成、使い方や前学年の学習の復習ができる「Pre Unit」が設定され、年 3 回の「Review」では、学習した知識や技能を使って挑戦する活動が設定されているなど、段階的に学習できる工夫がなされている。各 Unit で異文化について考えさせる話題が提示されており、自ら調べたり、授業で話し合ったりすることで学びに向かう力や人間性等を高めることができるように工夫されている。また、児童に親しみのあるキャラクターを使用するとともに、児童が興味を持つような動物や食べ物、スポーツを題材に扱い、こちらもページ数の下のところに英語の綴りが記載されているので、自然と英語に慣れていくように工夫されていると感じた。

さらに、6 年生の最後の Unit では、中学校生活・部活動についても記載されており、小学校で習った英語学習がそのまま中学校の学習にスムーズに移行していける。

教 育 長 各委員にご意見を伺った。それでは、絞り込みを進めていきたいと思う。7 者あるので、各委員からご自身が推薦したい 3 者を挙げていただき、絞り込みということで進めたいと思う。

吉田委員から 3 者をお願いしたい。

吉 田 委 員 まず、子どもたちにとってということだが、A 者、そして C 者、さらに E 者、この 3 者を推薦したいと思う。

花 輪 委 員 私は、A 者、D 者、F 者の 3 者を推薦する。

阿 子 島 委 員 私は、A 者、B 者、次に E 者の 3 者を推薦する。

加 藤 委 員 A 者、C 者、F 者になる。

中 村 委 員 A 者、B 者、それから G 者を推薦する。

里 村 委 員 A 者、B 者、F 者である。

教 育 長 各委員から推薦いただく 3 者を挙げていただき、私のほうで数字を積み上げていくと、上位 3 つとしては、A 者が 6、B 者が 3、F 者が 3 ということで、この 3 つが上位になるかと思う。

各者様々工夫がなされているところだが、今申し上げたように、上位 3 者ということで、A 者、B 者、F 者という形になった。

それでは、次の段階に進み、今申し上げたこの3つの発行者について、改めて意見を頂戴し、議論を進めていきたいと思う。最終的には皆様の合意のもと、1者に絞り込みたいと考えている。

まず、この3者について、委員の皆さんから確認したいことやご質問、ご意見があれば挙げていただきたい。

吉田委員 冒頭でお聞きした四線譜のことだが、今、3者が挙がったが、この中で2者が恐らく一部間隔が広い。1者が大体等間隔ということだった。それで、既に移行期にその間隔で書く活動をしていて、もしかすると、移行期であるから、中学1年生、2年生になっている可能性がある。小学校でやった間隔が中学校に行ったときに何か支障みたいなものがあったかどうか。それを確認させていただきたい。

指導主事 ご指摘があったとおり、小学校の現在の共通教材では、実線で示される基線と呼ばれるものと、第2線の間が非常に開いているものを使用している。全ての小学生に聞いたわけではないので難しいところだが、先日訪問させていただいた学校で、中学校1年生に聞いてみたところ、それほど違和感はないということだった。中学校になって均等になったことによって違和感はないという生徒が多かった。

教育長 ほかにないか。
(質疑なし)

教育長 それでは、今までご議論いただいたところだが、どの発行者の教科書が一番と考えられるのか。それぞれ委員の皆さんから自由に発言をお願いしたいと思う。委員の皆様方から、全員A者という推薦はあったが、ほかのB者、F者も含めてだが、何かご意見があればお願いしたい。

里村委員 今、三つが議論の対象になったのだが、この三つを選んだ者として、感想を言いたい。この3つの比較は非常に難しかった。ほかの漏れたところも含めて皆さんおっしゃっていたが、どれもすばらしい教科書だと思う。A者を推薦したのは、繰り返しになるが、やはり、自分がもう何十年も前に受けた英語の学習と比べて、今これだけグローバルな世界になっている中での小学校高学年の授業であるから、昔のように文法を覚えるだけで話も、道も聞くことができない。それで、ただただ文章を書いたりということでは、とても英語教育としてほかの国に追い付いていけないのではないかという思いがあり、その延長で、やはり、音を大切にすることを大事にしてほしいなという気持ちが強くある。それは、どこのどの教科書が一番そのことがよく出ているだろうかという観点から見て、A、B、Fを選んだのだが、その中でも一つ選ばなければいけないということであれば、Aがよろしいかなと思った。「Picture Dictionary」の発想もなかなか優れていると思う。こういう存在については、随分高学年になってから私は知ったのだが、単語の意味を絵で表せば一目瞭然なので、児童のころからそういう勉強をするというのもいいのかなと思った。一番は、やはり音。言語は音なんじゃないかなということから、そこが強いと思われる教科書を推薦したいと思う。

教育長 ほかの委員の皆さんはどうか。

花輪委員 いろいろなことを盛り込みたいのだが、A者は5年生には日本のことをよく知ってもらおう、あるいは日本のことを外に向かって紹介できるような力を持とうと。6年生のときには世界の中での日本、世界の中での自分といったものを考えようという大きなテーマ、それをつくって単元を構成しているというのは、やはり優れた点かと思う。多くの教科書がいろいろな工夫をして、それぞれにいいところがあるが、1者を選べということであれ

ば、そのような観点からA者を選びたいと思う。

吉 田 委 員 里村委員の意見にも関連するが、まさにそのとおりで、音から文字へ、そして、ある意味、世界へ目を向けるという生活化、そういうもので編集されているということで推薦したいのがA者だった。

もう一つ、一番気になったのが、いわゆる四線譜の在り方であり、A者が四線譜で間隔が大きい。それが、中学生になったときの影響がどうなのかなというのがちょっと懸念されたわけだが、先ほどの事務局の回答の中にも、別に心配することではなかったというようなことであつたので、そういう教科書編集を踏まえて、A者がいいのかなと思った次第である。

教 育 長 今、3人の委員の方からA者ということで発言があつたが、ほかの意見はないか。

加 藤 委 員 やはり、今後、例えば中学校、高校、さらに高等教育に上がっていくときには、日本の現状では「読み」「書き」に少し偏重していく実態がある。だからこその小学校の最初の入り口である。そこを、英語ということを使って何を身に付けてもらいたいのか、あるいはどうそれを感じてもらいたいのかという、コミュニケーションと、自国の文化と他国の文化のつながりである。。それが小学校の英語の役割ではないかなと思っているので、今までお話が出たとおり、私もA者を推薦したい。私が推薦した三つのうちA者とF者がここに入っているのだが、A者は特に、この授業によって何を身に付けてもらいたいかが大きく背景に感じられた。F者のほうはどのようにコミュニケーションをやってもらおうと楽しいかということに焦点が当たっていたように思うが、小学校の英語を通じて何を感じ取ってもらいたいかというところで、私もA者でよろしいと思っている。

教 育 長 4人の方からA者という声があり、内容としては、音やコミュニケーションの点あるいは世界の中での日本あるいは地域といった広がり、あるいはその文化の比較というような視点の指摘があつたかと思うが、このような観点で皆様方のご意見を拝聴すると、A者ということで採択してよろしいか。

(異議なし)

採択の候補として、A者ということで、ただいまご議論いただいた内容を事務局のほうに整理していただき、26日に最終的に決定したいと思う。

ここで休憩時間を取りたいと思う。16時45分まで休憩時間をとることとする、一旦ここで休憩する。

(休憩 午後4時29分～午後4時45分)

教 育 長 それでは協議を再開する。

次に、社会について協議を行う。

事務局から、学習指導要領の目標等について説明をお願いしたい。

教育指導課長 担当指導主事が説明申し上げる。

指 導 主 事 小学校社会では、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを目標としている。

新しい学習指導要領では、社会に関して、改訂の趣旨として、主に次の5点が示されている。

1. 各学年の目標を三つの柱に沿った資質・能力として整理、明確化する。その際、第

3 学年及び第 4 学年の目標と内容については、系統的・段階的に再整備する。

2. 小学校社会科における見方、考え方を「社会的事象の見方、考え方」とし、社会的事象の特色や意味を考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする際の「視点や方法（考え方）」であり、「位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係に着目して社会的事象を捉え、比較・分類したり、総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること」と整理する。

3. 内容について。①地理的環境と人々の生活、②歴史と人々の生活、③現代社会の仕組みや働きと人々の生活の三つに、また、①、②は空間的な広がりを念頭に、地域、日本、世界と、③は経済、産業、政治及び国際関係と、それぞれ区分して整理する方向で改善を図る。

4. 現代的な諸課題を踏まえる観点から、我が国や地方公共団体の政治の仕組みや働き、世界の国々との関わりに関心を高めるとともに、社会に見られる課題を把握して、社会の発展を考える学習の充実を図る方向で改善を図る。また、持続可能な社会づくりの観点から、人口減少や地域の活性化、国土や防災、安全に関する内容の充実を図るとともに、情報化による生活や産業の変化、産業における技術の向上などに関する内容についても充実する方向で改善を図る。

5. 社会との関わりを意識して、学習の問題を追究・解決する学習の充実を図り、学習過程において主体的・対話的で深い学びが実現するよう、指導方法の不断の見直し、改善を図る。

この趣旨に合わせて、各学年の目標や内容構成が改訂されている。

協議会において取りまとめた小学校社会の全発行者の特長は、別紙資料 2 報告の 3 ページにお示ししている。

主な特長については、まず A 者は、「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」という学習の段階が視覚的に示され、問題解決の流れが分かりやすくなるように工夫されているという点が挙げられている。

次に、B 者は、対話的な学習が多様に例示されているとともに、主体的に学習を進めることができるように工夫されているという点が挙げられている。

次に、C 者は、「空間」「時間」「関係」という着眼点を示すことで、社会的事象の見方、考え方を働かせた問題解決的な学習につながるように配慮されているという点が挙げられている。

教 育 長 ただいまの事務局の説明について、何かご質問はあるか。

(質疑なし)

それでは、各発行者の教科書見本本について、委員の皆様方からご意見をいただきたい。まずは、花輪委員からどうか。

花 輪 委 員 今説明していただいた内容だが、3 年生から 6 年生まで 4 年間習う科目として設定されているが、どの者とも、まず 3 年生で自分たちが住んでいる町をよく知ろうよと。4 年生になると、都道府県単位でよく知ろう、それで日本の中での役割を考えよう。5 年生では日本全体を考えるのだが、その中で自分たちがどういう暮らしをしているのか、それが成り立っているのか、どういう人たちが支えているのかを知ろう。6 年生で日本の歴史、それから政治、さらには日本と世界のつながりのことを考えよう、そういう組み立てになっていると思う。いずれのところでも、まず課題を設定して、問題を設定して、それを

調べる中で、グループを作って、自ら動いて調べるというアクティブラーニングで学ぶような内容になっていると思う。

3者、教科書が出ているが、いずれも各者工夫して、それぞれの目標を達成するように教科書が組み立てられていると思った。

以下、3者の特長をそれぞれ簡単に述べたいと思う。

まずA者について。3・4年生で1冊、5年生、6年生が2分冊の構成。これは他者にはない特長である。各单元ごとに、「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」「ひろげる」と、そういう順序があり、自主学习でもあるいはグループ学習でもそれをこなしていけるような内容となっている。

6人のキャラクターを導入し、考える方向性をところどころに示しているというのが特長である。

4年生の第1单元では宮城県が、第5单元では雄勝硯が、6年生では震災復興ということで、地元宮城県が使われているというもある。写真を多用しており、イラストもあるが、大変明瞭である。図や文章の配置がよく、見やすい教科書だと思った。

特に、6年生で2分冊、「歴史編」が約160ページ、「政治」「世界の中の日本」が100ページと分けてあるのが特長だが、世界の中の日本のところも十分書き込まれているなど思った。教師、教員にとっても児童にとっても、非常に使いやすい教科書になっているように思う。

B者について。各学年1冊ずつの教科書で、大きさは全部A B判である。

学習の進め方は、まず、学習の問題を作りましょうと。予想して学習計画を立てましょうと。次に調べましょう。まとめましょう。そして、つなげていきましょうと、そういう順序である。ほぼ同じといえば同じだが、若干、重きの置き方が違ったように思った。随所に「問い」「つなげよう」の指示があり、单元用にまとめをつなげようとして、教科書の中にとどまらない学習ができるように、発展を促しているのが特長であると思う。

6年生だが、6年生は、先ほど言った「政治」「歴史」「世界の中の日本」と、3つの大きな柱があるが、順序としては、「政治」、次に「歴史」「世界の中の日本」というような順番で論じられている。

この教科書だが、イラストを非常に多用しており、本文記載の事項を理解しやすくする工夫がなされている。

C者について。これもA B判で各学年1冊ずつの教科書である。学習の流れだが、まず疑問を見つけよう、調べよう、話し合おう、まとめよう、伝えよう、そして、特にこの者はグループでのアクティブラーニングを意識して進めようとしていると思った。教科書の中にはいろいろなコーナーを設けて、調べ方であったり、グラフ等の読み取り方であったり、それから発表するときの表現の仕方など例示していて、学習者に非常に親切なつくりになっている。

この者は4人のキャラクターを登場させており、この4人に学ぶ内容を語らせているというのが大きな特長である。

私は、6年生の教科書にすごく注目していたのだが、この者も「政治」「歴史」「世界の中の日本」という順序で、それぞれ「政治」が50ページ、「歴史」が180ページ、「世界の中の日本」が40ページと、バランスのとれているような分量になっているのではないかな。

まとめると、いずれの者もアクティブラーニングで自分のまちを、県を、国を、そして

歴史を知っていこうというふうに工夫して構成されていると思った。

教 育 長 阿子島委員、いかがか。

阿 子 島 委 員 私からは、まず、どの者もやはり防災教育にとっても力を入れていると感じた。それぞれの児童の生活や実態に合うように、また、地域や国の地理的環境、歴史、伝統文化とか、本当にいろいろなところに工夫がなされていると感じました。

それでは、まずA者から申し上げる。

A者は、3年生と4年生は1冊だが、5年生は上・下巻、6年生は内容ごとに「政治・国際編」と「歴史編」の2冊に分冊されている。学年によって、それぞれ学ぶテーマが変わってくるので、高学年では内容量が多くなるので、こうやって分冊されたのかなと感じた。

それぞれ、3年生から5年生の巻末には、どのように学んだかを振り返る場面があり、別の学びの進め方とかに取り組めるような内容も記載されていて、多様な学びの機会が設けられている。また、4年生から6年生は、先ほど花輪委員もおっしゃったが、宮城県をテーマにした内容も記載されているので、とても地元のものとしては関心を持って教科書を読み込めるのではないかな。

地域や国の地理的環境とか、歴史や文化、社会の仕組みなどもとてもよくいろいろと配慮されて書かれていると感じた。「ひろげる」や特別教材が各所に盛り込まれていて、そのときどきで子どもたちの関心がほかのところに発展させて授業を進められるのではないかなと感じた。

児童が親しみを持って学習を進める中で、アニメのキャラクターが使われているというのも、やはりとても大きいのではないかな。

次に、B者について。B者は前学年の振り返りの後に社会科の見方や考え方が各学年の巻頭に掲載されていて、社会的な見方や考え方を学んでいくのにとっても親切で、分かりやすく説明されている。3年生から6年生までは、本当に全体的に生活科から、中学校へと学べるような流れがうまくつくられている。

学習の展開を見通すモデル図とか、調べ方や表現方法なども、随所に書かれているし、学びの手引きが掲載されたり、自分でまず問題を提起して、そこからいろいろなところに調べに出向き、自分たちでいろいろ話し合いながら問題を解決していくというふうに、学年を追って、それが詳しく進められるのが、とても効果的である。

同年代の児童のキャラクターを登場させているので、子どもたちが親しみを持って教科書を使えるのではないかなと感じた。

次に、C者について。C者は、巻頭に教科書の使い方が記載されていて、全学年にわたって学習問題を追究、解決する活動の充実が図られており、児童の興味や関心を高め、学習意欲を喚起するように配慮されている。また、身近な事例やメディアの活用など、作業的、体験的な活動が児童の発達にもとても有意義に活躍できるように位置付けられていると思う。

こちらは、全学年が全部1冊ということで、年間を通じて1冊で構成している方がいろいろな地域の行事や他の教科等にも横断的に使えると感じられた。

学年ごとに男女の児童のキャラクターが登場し、とてもレイアウトとかバランスがよく工夫されている。

学習問題を共有する様子や交流活動の具体例、ノートの記述例なども細かく記載されているので、それぞれの学年に応じて、ここで調べるときはこういうふうにまとめればいい

とか、子どもたちにとっては段階に応じて分かりやすく説明されているのではないか。

教 育 長 加藤委員、いかがか。

加 藤 委 員 重なるところがあるが、まずA者からだか、3年生、1・2年でやってきた生活科で学んだ自分の町ということについて振り返りながら導入をしていく。そこから、町の地理と機能、歴史を詳細に見るという方向が、つながりとしていい。

4年生の教科書では、これまでも出てきたように、宮城県と県内の自治体が豊富に取り上げられていて、児童生徒が興味を持って学ぶ上で大きなメリットである。「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」「ひろげる」の、この流れも大変分かりやすいと思う。各単元で調べるポイントが示されており、調べ方やノートのとり方も提案されている。分冊については、軽い点が、子どもたちにとって扱いやすいのではないかと思った。

6年生の震災復興についても、東日本大震災や気仙沼が素材になっていて身近だと思う。

B者について。生活科からのつながりについては、やはり同じパターンで取り上げられているということ、それから、巻末にある「社会科ガイド」、これが情報収集の方法の助けになるかなと思った。單元ごとに選択素材が設けられていて、学習の幅が広がるようになっている。選択素材についてはどの者も持っている。

小5のところで、自然災害についての扱いが大変ボリュームがあり、「自然災害とともに生きる」という表現、あるいは「自然災害は完全に防ぐことはできないから対策が必要」という説明の明示が印象的だった。そこから、災害に強い町づくりをしていく公共事業や語り継ぐ活動について取り上げる流れがある。特に、東日本大震災後の経緯のある仙台であるので、自分のところではどうなのかということ自ら身近に調べることもできるのではないかと思った。

また、6年生のところで、東日本大震災を「震災」としてというよりは、「震災後に世界が目を向けて支援をしてくれた」という点に焦点化して取り扱っている。それも、各国の政府だけではなくNGOの動きや個人のボランティアも含めて指摘しているので、ここも大変身近な素材になるかと思った。

C者について。大変印象的だったのは、「見方・考え方コーナー」で社会科の視点を明確に打ち出していることである。「空間」と「時間」と「関係」ということである。この点から考えようというふうにアドバイスし、随所にそのコーナーが挿入されていて、意識付けをしている点も子どもたちの学びに役立つところだと思う。同様に、「学び方・調べ方コーナー」では、社会科の方法論について伝えており、また、「表現する」というところでは、記録の仕方、整理・まとめ方、そして、それを交流して表現していくということが明確である。

6年生では、中学校の社会科とのつながりが意識されていて、分かりやすく述べられている。特に、世界と日本との関わりや持続可能な社会を目指すということが、2点明確に打ち出されており、地理ではこうです、歴史ではこうです、公民ではこうですというふうに、中学校では小学校の社会科と違った展開があることをあらかじめ教えてくれる。

小学校5年生の自然災害についての取り上げ方は、「自然災害から人々を守る」ということで打ち出されており、減災の工夫や公助の部分だけでなく、釜石の例を用いて、自分で自らを助けるという自助についても触れているのがあるがたいところである。

教 育 長 中村委員、いかがか。

中 村 委 員 では、A者から。学習の進め方では、「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」として、学びの段階が明確に示されていて、今、何をすべきかということが子どもにとっ

ても理解しやすい形となっていて、主体的な学びができるように工夫されている。

そして、4年生では「わたしたちの県 特色ある地いきと人々の暮らし」として、また、6年生では「震災復興の願いを実現する政治」の中で、宮城県が事例地として取り上げられており、児童にとってもより身近で興味深く学習に取り組める内容になっている。また、他の教科の学習と関連するところには、「教科関連マーク」というものがあるが、他の教科と横断的な学習に使えるように工夫されていると思う。写真・イラストもとても美しく見やすい形になっている。

また、5年生、6年生になると分冊になっており、学習内容によって使い分けもでき、ちょっとではあるが、やはり重さという部分でも子どもたちには優しいのかなという感じがしている。

B者について。全体的にキャラクターによる対話というものが示されており、それがとても多く例示されていることで、実際に子どもたちによる対話学習が主体的に進められるように工夫されている。

見開きの最後の末尾のところに、「次につなげよう」というコーナーが設置されており、次の学習への見通しがきちんとできるように配慮されている。また、「まとめる」コーナーが設けられており、今までの学習内容を確実に確認や整理することで理解の定着が見込まれ、また、「ひろげる」のコーナーではそれをさらに発展した学習につなげられるように配慮されている。学習のまとめの部分では、前述のキーワードや学習問題がもう一度記載され、対話的な学習ができるようになっていて、主体的に子どもたち自身が学べるようになっていて、見開きとか折り込みの資料がとても充実していて、写真はとても印象的である。

C者について。「学び方・調べ方コーナー」があり、「見る・調べる」、そして「読み取る」「表現する」というふうに分けられており、そのときの学習に必要なポイントを示し、学習の目安になる。例えば、「表現する」ではノートのとおり方や話し合いの方法、「読み取る」では「たしかめる」「見つける」「考える」のスリーステップで考え方を示しており、グラフや図の読み取り方を示している。そして、これが目次にあることで、復習のときにすぐにそれを探し出すことができ、役に立つなと思った。また、「見方・考え方コーナー」があり、そこには学習したことと踏まえ、「空間」「時間」「関係」という点からさらに発展した学習につなげ、主体的な学習ができるように工夫されている。

A者、B者にもあったが、選択教材がここはとても豊富で、事例地や産業など、地域の学校の実態に、そして、子どもたちの興味・関心に合わせて選ぶことができるので、先生方の指導の幅も広がるのではないかな。

まとめで「振り返りシート」というものがあり、学習を振り返ることで、児童に内容が定着し、自分で考えをしっかりとまとめることができる工夫がされている。また、「わたしたちの学びを生かそう」ということで、各単元の終わりにそういうものがあるが、これまでの学習を生かして、子どもたちの興味や関心を持ったものを自主的に発展学習ができるように工夫されている。

教 育 長 里村委員、いかがか。

里 村 委 員 A者だが、編集の一番のポイントに、「グローバル化する国際社会に主体的に生きる」、そういう子どもの資質・能力を育てようというのがあるということがよく感じられる内容になっている。その点が特にすぐれていると思う。グローバル社会に力強く生きていく、そういう力を養おうと。それともう1点が、道徳教育との関連である。このA者の特長を

私なりに考えると、この2点があるかなと思う。教科書を見ていただいても、そういうところがよく盛り込まれたところである。

それから、東北に関係する題材がたくさん入っているということで、偏りが少ないという印象を受けた。少し細かくなるが、藩校の説明もあって、会津の藩校と同時に仙台の藩校、それから米沢の興譲館があるのも読んだときにぐっとくるところではあった。

それから、もう一つ、社会の教科書でいわゆる「カリキュラム・マネジメント」という言葉が使われているが、社会の授業で、やはり他教科との学習内容をきちっと関連を示していくということは非常にいいことだと思う。A者は特にまた、より効果的な「カリキュラム・マネジメント」につながるような編集になっているのではないかということである。

5年生を上・下にして、6年生を「政治・国際編」と「歴史編」に切り分けているというところも一つ特長的だなと思う。

またちょっと細かくなるが、憲法とか政治の仕組みの説明の中で、このA者は東京都の区議会ではなくて、市議会の説明になっている。これもなかなか我々仙台としてはいいのではないかと思う。

B者について。他の委員からもご意見があったが、B者の特長は防災教育に関連した教材が各学年に掲載されているということで、これも最近の重要なテーマだと思うが、教科書にしっかり取り込んであるということである。

それから、3学年・4学年の巻頭には、やはり他の教科との関わりのコーナーを設けて、その着意から教科等横断的な社会科にするんだという考えがはっきり児童にも伝わるように構成が工夫されている。総じて、内容は関東から西日本のほうのテーマが充実しているということも特長だと思う。

C者は、これもやはり防災と安全教育に関係する教材が充実しているということと、併せて人権、福祉に関する問題も取り上げられており、人権尊重、命を大切にす教育にも工夫が凝らされていると思う。

それから、もう一つの特長は、児童同士の話し合いを促進し、対話的で深い学びができるように工夫するというのがC者の特長だと思う。その対話を通じて小単元に落とし込んでいるが、問題解決的な流れを教科書から生み出すような仕掛けができていているということである。

東北については、5年生の教科書に、米どころの庄内平野について10ページ以上にわたる説明がされているというのも特長だと思う。

教 育 長 吉田委員、いかがか。

吉 田 委 員 先ほども指導主事の話があったように、社会科における学習の進め方という観点から話をさせていただきたい。

まず、社会的事象を捉えるということから始まり、何をどのように調べ、そしてまとめるのかということが社会科特有の学習パターンなのかと思う。言葉を換えれば、問題解決的な学習形態ということになるが、その点については、3者ともしっかりと押さえられているなという印象を受けた。

続いて、もう少し具体のところでは申し上げると、単元の導入ページに、学習内容に関する生活体験の掘り起こし、そして関連資料の読み取り等の学習への動機づけが、これも3者とも図られているという印象を受けた。

続いて、授業展開である。まずA者について申し上げますと、これも皆さんが言っているが、学習問題を把握する。そして、問題が多様な場合に、幾つかの観点から調べる活動、

そして、まとめ、いかすというようなパターンで構成されているが、A者の特長としては、この学習問題を把握するということについて、初め、多様な視点から問題を想起させる。そして、具体的内容に絞り込むという2段階の構成になっているのが特長と受け止めた。

B者については、「学習問題をつくる」「学習計画を立てる」「調べる」「まとめる」というふうな構成になっているが、特長的なこととして、次の時間につなげる働きかけが設定されているというところにある。

さらに、C者については、同じようなパターンで進めるが、単元の終わりのほうで、さらに発展させるということで、新たな学習問題、ある意味、発展的な学習を促すというような提案がなされていることが特長と思った。

そのほかの観点として、採択の観点の中に、仙台市の学校教育の推進を図る内容がある。それで、昨年までの結果だが、仙台市標準学力検査結果を見たときに、中学校1年生の社会科で基礎的知識が目標値に達していなかったことがしばしばあった。そういう点で見させていただいたのだが、中学1年生の4月の検査であるから、内容は小学校6年生の内容になる。そういう意味で、基礎的知識、基礎的学習事項ということで、どのように編集されているかということで見たと、3者ともしっかり押さえられているという印象を受けた。

さらに、5学年においても、基礎的知識に関して同様なことがあった。これは、この内容は4年生の学習内容になる。そのような点から見ると、A者は宮城県の地形、気象、産業などを事例地として取り上げているということで、身近な地域から学習に入れるということで、4学年の社会科学学習への大きな動機づけになるという印象を受けた。

教 育 長 ただいま、委員皆様から各者についての受けとめ、感想をお聞きした。

これからは、さらに議論を深め、最終的に採択候補を1者に絞り込みをしていきたいと思っている。

それでは、各委員のご議論を踏まえ、どの発行者の教科書がいいのか、これから1者に絞り込むためのご意見をいただきたいと思う。どなたでも結構なので、絞り込みのご意見をお願いしたい。

中 村 委 員 どの者も、やはりいろいろな観点からしっかりと授業の内容、そして、子どもたちのためにということで作られているとは思いますが、私は、やはり、社会科ということで、しっかり段階を踏んで、最終的にはこの社会的事象はどうだったのか、そして、それを今度まとめた後に、では自分たちの今後の生活にどう生かしていくのかということをしかりと子どもたちに学んでもらいたいというのがある。そして、やはり、宮城県というところを大きく事例地として取り上げられていることによって、子どもたちがより身近で、そして学習の際、「あ、ここはこうだよ。僕、行ったことあるよ」というように興味を持って取り組むことができるという点で、A者を推薦する。

教 育 長 ほかの委員からもご発言をお願いしたい。

阿 子 島 委 員 私も中村委員と同じように、A者を推薦させていただきたい。それは、3・4年生は1冊だが、5年生は上・下巻に分かれているし、6年生は歴史と国際問題など、2冊に分冊されているので、子どもたちの日頃のランドセルを背負っている姿を見て少しでも教科書が軽くなる方がいいのかなと、まずそれが第1点である。

それから、内容的には、やはり地元宮城県のことがふんだんにどの学年にも記載されており、身近な内容が教科書に載っているということはとても大きなことなのではないかと思う。せっかく取り上げていただいているので、A者を推薦させていただきたいと思った。

教 育 長 ほかに、委員の皆さんから意見はないか。

加 藤 委 員 先ほど「行ったことがある」というような身近な部分を、A者が自治体としての宮城県を取り扱ってくれていることでという意見があった。加えて、仮に行ったことがなくても、ちょっと行ってみるができる、確認をしに行ける、社会見学ができるというような意味でも、我が町を扱っていただいているのは、大変子どもにとってメリットかなというふうに思う。私もA者ということで推薦したい。

教 育 長 その他にはないか。

吉 田 委 員 先ほども申し上げたのだが、やはり、社会科の学習というのは、社会事象を漠然と見つめるのではなくて、その中から問題とか課題を見出す力というもの非常に大切なものなのかなと思う。そういう意味で、編集のあり方で、いわゆる「つかむ」という言葉を使っているが、単元によってはそれが2段階式になっている。大きなところから捉えて、そして細部に入っていくという、そういう社会事象の見方という、力をつける意味でも、やはり、編集の在り方に工夫があるA者かなと、私も思った。

教 育 長 4人の方からA者という声があった。

花 輪 委 員 私もA者を推薦したいと思う。私の発表の中で、6年生の中身をすごく気にしてお話したつもりなのだが、A者は2分割にして、「歴史編」と「政治・国際編」ということで、歴史を踏まえた上で、私たちの今の日本あるいは国際的な関係が成り立っているということであれば、「政治・国際編」、それから「歴史編」という組み合わせでやった方がいいのではないかなと考えていたので、私の発言の中では最初にそう申し上げた。もちろん、B者、C者も、6年生の1冊の教科書の中で、1. 政治、2. 歴史、3. 世界の中の日本、になっているのだが、その順番はどうでもいいと思う。そういうやり方でできるとは思うが、そここのところが分冊という形で分かれているというのは、一つの考え方でそうしたのかなと思うので、A者をとりたいと思う。

教 育 長 A者という意見が多かったと思うので、これまでの議論からすると、今申し上げたように、A者を採択の候補としたいと思う。

皆さん、いかがか。

(異議なし)

それでは、社会については、以上のご議論いただいた内容を採択理由として、事務局に整理していただき、26日に最終的に決定いたしたいと思う。

次に、地図について協議を行う。

事務局から、学習指導要領の目標等について、説明をお願いしたい。

指 導 主 事 小学校地図について説明する。

小学校地図についての教科の目標は、小学校社会科と共通である。先ほど説明させていただいたので、ここでの説明は割愛させていただく。

改訂の趣旨についても小学校社会科と共通だが、地図帳に関する内容に絞って説明する。

教科目標の柱書きにある「グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育成するため、改善事項として、これまで第4学年から配付されていた教科用図書「地図」を第3学年から配付するようにし、グローバル化などへの対応を図ることになった。

各学年の目標や内容の取り扱いなどにも、地図帳の活用についての文章が記載されており、全学年を通じた活用が求められている。

協議会において取りまとめた小学校地図の全発行者の特長は、別紙資料2報告の4ペー

ジにお示ししている。

主な特長については、まずA者は、「地図マスターへの道」で地図を見る際の基礎・基本を具体的に示し、自ら学びに向かえる工夫がなされているという点が挙げられている。

次に、B者は、歴史的な事実と地図、統計資料と地図を関連させて配置しているページがあり、発展的な学習ができるように工夫されているという点が挙げられている。

教 育 長 ただいまの説明について、何かご質問等あるか。

里 村 委 員 地図の学習において、インクルーシブ教育ということが言われているが、具体的にどういことを指しているのか教えていただきたい。

指 導 主 事 地図帳の場合、色覚異常やその傾向がある児童にとって、見やすく分かりやすいというのがポイントとなると考えている。A者、B者ともに、ユニバーサルデザインを採用しており、色使い、フォントの見やすさに配慮されている。

教 育 長 ほかにないか。

加 藤 委 員 今回のこの地図帳を使う学習は、ほかの教科でも考えられるのか。もし、その場合にはどんなことが考えられるのか、教えていただきたい。

指 導 主 事 社会科の学習に限らず、各教科で、例えば日本や世界の地名などが出てきた場合については、他教科であっても地図帳を出して調べたりするというようなことがある。

教 育 長 ほかにないか。

(質疑なし)

それでは、各発行者の教科書見本本について、各委員からご意見をいただきたいと思う。まずは、中村委員、いかがか。

中 村 委 員 A者とB者とも、地図がとても楽しくて、わくわくしながら見ている自分がそこにいるので、子どもたちもきっとこんな気持ちになるのかなと思いつきながら見せていただいた。

A者についての特長だが、「広く見わたす地図」というところがあり、これはとても見やすく、その後の詳細な地図へと移行していくという流れは、子どもたちの実態や、そして授業に広く対応できる。細かく見たいときにはこちらでというような先生の指導の幅も広がるのではないかと思った。

資料の部分では、自然災害と防災を重視しており、防災マップの作り方などもとても丁寧に紹介されていて、防災という観点をしっかり見据えたものになっていると思う。日本の自然の様子は、見開きの中に地図と資料が一目で分かるように配置され、とても充実しており、学習の課題でもある情報を読み取る力や、その情報を基に思考したり、思考を表現する力の学習に使用できるものだったと思った。

そして、「地図マスターへの道」というものは、子どもたちが楽しみながら学習するために地図への興味・関心を引き出し、そして、基礎・基本が示され、主体的に学習できるように工夫されていると思う。

B者だが、地図の中でキャラクターによる問いかけや、そして発見が投げ掛けられていて、それに関して、子どもたちが主体的に学べるように工夫がされているなどと思った。

資料の部分だが、日本の歴史を通した部分が充実しており、同世代の世界がどのようなものだったのかというものが捉えられ、発展的な学習ができるように工夫されていると思う。日本の歴史と文化として、世界遺産や名勝、そしてお祭りなどが紹介されており、それはとても美しいものであった。そして、その日本の自然や文化を理解することができるように工夫されていると思う。

先ほどのご説明にもあったように、3年生から使用するという点で、これはA者もB

者も、3年生でも読めるように仮名を振り、スムーズに入れるように工夫されているのではないかと思った。

教 育 長 里村委員、いかがか。

里 村 委 員 A者は、まず地図帳の使い方と決まり事をしっかりと子どもたちに伝えるところからスタートしている。広く全体観を見る地図の見方と、ずっと掘っていく、細かい見方がうまく展開するように構成されているというところがいいと思う。

それから、今、ご説明もあったが、「地図マスターへの道」というのはなかなかいい発想で、子どもたちがじっくりと地図を見るように工夫されていると思う。

併せて、一つの例だが、果樹園とか田畑などの土地利用について、そういう学習が地図からできるようにも工夫がされていて、地図の勉強にとどまらずに、広く社会の勉強につながるような工夫がされているということがいいところだと思う。

B者。3年生から始まる地図が、段階を踏んで、地図をいつまでも親しみを持って学ぶというように誘導するような編成が非常にいいと思う。

それから、A者もそうだが、特に東日本大震災を含む自然災害に対する写真を掲載するなどして、また、ハザードマップの紹介などを通じて、防災の理解につなげようという意図が強く感じられる。

また、地図の中に、国語と音楽、道徳などに関する人物だとか、記念館が掲載されていたと思うが、このように他教科との関連性をきちんと地図を通して教えていこうという工夫もすばらしいと思う。

教 育 長 吉田委員、いかがか。

吉 田 委 員 A者については、世界地図では、国境を表示して、それぞれの国を特長付けるような構成になっているとか、日本地図では、地形を中心に大きく日本を捉えさせようとしているという特長がある。

B者については、世界地図では気候を中心にそれぞれの国が象徴するもので構成しているとか、日本地図では県の位置や形を特長付けるような編集をしており、2者それぞれに意図を持って、様々に工夫していることが分かるなという印象を受けた。

それから、世界地図の表し方、示し方だが、高低差を示しながら、その地図以外にヨーロッパ、アジアを国別に、そしてアメリカを州別に、別枠で編集しているというのがA者の特長で、B者においては、高低差を中心に、国境のラインを入れて国別を見取らせることに配慮した編集を工夫しているという特長がある。

それから、地図の活用ということについて、地図の概念、地図の記号、方位、高低差の表し方というような基本的事項があるが、A者はページ数をとって、ステップを踏みながら理解できるように編集している。B者は、細部にわたって、丁寧に限られたページに集約して編集しているというのが特長である。

それから、日本の地形、気候の表し方だが、A者には日本の自然に関する事項、地形、気候、災害を集約して関連付けて編集しているという特長がある。B者については、日本の自然について、地形と気候をコンパクトにまとめて、他の国との比較というものを強調するための拡大ページということで編集しているのが特長である。この拡大ページ、折り込みページがあるが、A者は3か所、B者は4か所で、これは4年間使うことになるが、子どもたちの実態として、常に折り込んだりすると、そこが折れたり切れたりして、雑な扱いになるのが小学生である。そういう面で、損傷を防ぐためにB者が折り込みの仕方に工夫しているという印象を受けた。

教 育 長 花輪委員、いかがか。

花 輪 委 員 3年生で使い始めて6年生まで4年間使う地図帳ということで、地図とは何かということから理解させて、最終的に他の教科でも使用することを含めて多くの情報を地図帳から読み取る力を付けるのが地図帳の役割だと思う。

A者、B者の2者あるが、それらの目標を達成するように、それぞれが工夫したものとなっていると判断した。

まず、A者だが、既に指摘があるが、冒頭に「地図って何だろう」「地図のやくそく」「地図帳の使い方」の項目を設け、丁寧な導入を図っているのが特長である。さらに、その後に「広く見わたす地図」として、やや簡略化されているが、約10ページにわたり日本全体を示したことも特長である。これは、A者は先ほど吉田委員から、よりコンパクトにとあった。実は18ページ、両者のページ数は違うのだが、その部分に充てられていると理解できる。A者の後の方の地図もイラストを入れた日本の各地方を示した図等が採用されており、低学年の児童生徒へ地図の活用を促すものとなっているのではないかなと思う。

地図帳の途中で、日本から世界に目を向けるところがある。世界地図の表し方として、地球儀を出して学ぶところがあるが、両者似ているが、A者のほうは「ランベルト正積方位図法」などと、実にきちんと図法を書き入れているということは評価できると思う。

巻末の30ページにわたる資料だが、先ほど、両者とも特長があるという話が出たが、A者は自然災害あるいは防災に力を入れているのが特長だと思う。

次に、B者について。地図の中には、イラストなどが印刷されており、児童の興味をつかむような工夫をされているが、地図そのものは、中学生や高校生が使っても十分なほど情報がしっかりと盛り込まれているというのがB者の特長である。また、この地図も大変見やすい。ユニバーサルデザインを両方とも使っているが、中でも見やすい地図になっているのではないかなと思う。

巻末の30ページにわたる資料編、分量的には同じだが、力を入れているところが違い、特にこのB者では、日本の歴史と世界の関わりについて、①、②と4ページにわたって示しているのが特長である。最後に折り込みがあり、日本の災害、自然災害を示したところだが、大判の地図の上に、例えば震源の位置とマグニチュードを表し頁があるが、大変分かりやすい表示で、日本全国どこにいてもいろいろな自然災害に遭う可能性があるよというコーションを与える、大変いい表現ではないかなと思う。

教 育 長 阿子島委員、いかがか。

阿 子 島 委 員 私も皆さんと同じようなことなのだが、どちらの地図も本当に見やすく、土地や海洋の様子とか色もとてもきれいで、本当にはっきりと見えるので、子どもたちも、多分4年間使って、楽しんで見ているのではないかなと思った。どちらも、索引のところ、とても引きやすくイラストなどもついて、ちょっと興味を持ったら手に取ってもらえるような形に構成されているのではないかなと感じられた。

それでは、A者について。A者は巻頭に「地図のやくそく」「地図帳の使い方」、先ほど花輪委員もおっしゃったが、それが記載されていて、初めて使う3年生にも地図ってこういうものだとても分かりやすくなっているのではないかなと思った。また、地球儀を作るところや、地域で防災マップを作ってみようとか、そういうところも、とても作業工程などが分かりやすく記載されている。いつどこで何が起こるか分からない状況もあり、防災ハザードマップ等分かりやすく載っているなど、子どもたちにも利用しやすいのではな

いか。

また、「地図マスターへの道」というのも記載されているので、この地図は、教科学習のときだけ見るのではなくて、いろいろなときにちょっと興味を持ったら手に取ってもらえる工夫がある。

次に、B者について。B者の方も日本列島を見渡す地図から始まって、日本の地図、都市圏図、世界全図、世界の州ごとの地図とか、資料や統計など、いろいろな配列になっている。歴史的遺物や理科に関する資料、食に関連した資料なども豊富に記載されているので、いろいろな単元や、ほかの教科においても関連付けて利用しやすい。

また、初めて地図を利用する3年生にも分かりやすく、地図の仕組みや約束事をはじめ、いろいろなものに関係する内容が載っているのので、興味や関心を引いて、発展した授業にも利用できるのではないかと思った。

こちら地球儀を効果的に活用されているし、日本の歴史や伝統文化に関する内容などもとてもよく記載されている。世界遺産等は全部載せているとは書いてあったが、今回、新しくまた世界遺産が入ってしまったので、そこは残念だったかなと思う。

なお多彩なキャラクターなども活用されているので、とても子どもたちには意欲的に利用してもらえる地図ではないかと思った。

教 育 長 加藤委員、いかがか。

加 藤 委 員 A者だが、やはり、私も最初の「地図とは何か」に非常に引き込まれた。イラストではなく写真をそのまま使い、真横から学校を見る、斜め上から見る、真上から見る段階を踏んで地図に移行していく。要は3次元のイメージを2次元化していく地図の仕組みと意味を理解させる上で、とてもいいアイデアだなと思った。それがまず感心した点である。

それと、「地図のやくそく」、そして「地図帳の使い方」が良い。地図記号や等高線、縮尺に説明が必要だということはよく分かるが、地図上の地名を索引から探す方法というのも、意外に素朴なスキルではないかと思う。そこにページを割いて分かりやすく説明しているというところがいいと思った。また、同じ地域の地図を用いて、多種類の地図の使い分けを説明していくことが大変分かりやすい。問題も用意されていて、使いやすい。また、色合いもやや薄目なために文字が見やすいということがあると思う。

それから、B者だが、こちらで特に印象的だったのは、地図帳に日本の歴史として、世界との関わりの地図を載せているところである。特に、後ほど、小学校6年生で歴史を学ぶ際には、非常に重要な転換点になってくるような8世紀、これは遣唐使の時代、それから13世紀はモンゴル帝国との関係の時代。16世紀は鉄砲、キリスト教伝来や大航海時代。19世紀は開国、また20世紀は世界大戦ということで、歴史上、日本と他国との関係の節目になる非常に重要な時代を世界地図から見ていくために示されている。地図は空間的な理解にとどまりやすいのだと思うが、そこに時間を組み入れた良い例だと思う。そういう意味で、後々まで使えるいい部分だと思った。

教 育 長 委員の皆様方から一通り見本本に対するご意見をいただいた。

さらに議論を進めて、最終的に採択候補を1者に絞り込みを行っていきたいと思う。

それでは、今までの各委員のご議論を踏まえて、どの発行者の教科書がいいのか、ご意見をいただき、絞り込みをしたいと思う。

どなたでも結構なので、こちらの地図のほうが自分としては推薦できるというような発言をお願いしたい。

吉 田 委 員 この地図は、やはり社会科における調べ学習における資料集的な位置付けもできるのか

なと思った。そういう意味で、見てとりやすい編集ということが肝心かなと思って、先ほどの加藤委員の言葉にもあったが、地図帳を開いたときに、高低差をあらわす色の濃淡が淡いほうが地名等が分かりやすい。それから、河川も分かりやすいという印象がある。そういう点で、A者の編集が良く、私にとっては分かりやすいという感じを受けた。

教 育 長 そのほかの委員の皆さん、どうか。

中 村 委 員 3年生から今度はこれを使うということもあるので、巻頭の「地図って何だろう」とか「地図のやくそく」、そして「地図帳の使い方」など、その後の高学年になったときもきちんと使えるような形が低学年からずつつながって使い方が示されているという点で、やはりA者を推薦したいと思う。

教 育 長 そのほか、ご意見いただきたい。

阿 子 島 委 員 私も、やはり、最初に「地図帳の使い方」などがしっかり説明されていて、3年生から使いやすくなっているのも、A者の方がいいと思った。ただ、先ほどちょっと勘違いして、世界遺産の地図が全部載っているのはA者の方だった。大変失礼した。

教 育 長 今ご意見いただいた皆様方からはA者という推薦の言葉があったが、A者ということで、皆さん、よろしいか。

(異議なし)

それでは、これまでのご議論から、A者を採択の候補と考えて進めたいと思う。

地図については、以上ご議論いただいた内容を採択理由として、事務局に整理してもらい、26日に最終的に決定したいと思う。

以上で、令和2年度使用の仙台市立義務教育諸学校教科用図書（中学校）の採択と、小学校の外国語、社会、地図の採択についての協議を終了する。

4 閉 会